福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1205集

長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書　2

内野熊山　1

－内野熊山遺跡第１次調査の報告－

２０１３

福 岡 市 教 育 委 員 会

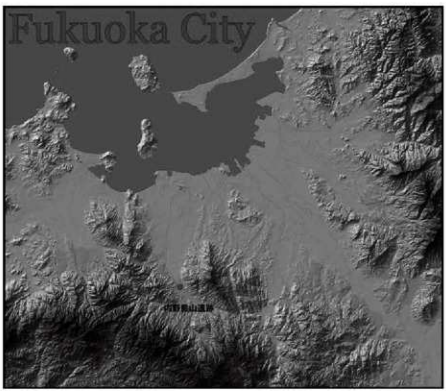
内野熊山1
長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書2
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第二〇五集
二〇一三
福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1205集

長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書　2

内野熊山　1

－内野熊山遺跡第１次調査の報告－



調査番号　１０２５

調査略号　UKY-1

２０１３

福 岡 市 教 育 委 員 会

序

玄界灘に面して広がる福岡市には豊かな歴史と自然が残されており、これを後世に伝えていくことは現代に生きる我々の重要な努めであります。

福岡市では開発事業に伴い、やむをえず失われていく埋蔵文化財については事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

今回、長峰地区土地改良事業を行うにあたり、松木田遺跡・岸田遺跡・内野熊山遺跡・長峰谷口Ｂ遺跡の発掘調査をおこない、多くの貴重な成果をあげることができました。

本書は内野熊山遺跡第１次調査の報告となります。この報告書の刊行が、文化財保護へのご理解と認識を深める一助となり、また研究資料としても活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行にいたるまで、福岡市長峰土地改良区の皆様をはじめとした地域の皆様、そして関係各位のご理解を賜り、多大なるご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

平成 25 年 3 月 22 日

教育長　酒井　龍彦

例　言

1．本書は福岡市教育委員会が、長峰地区土地改良事業に伴い、平成 21 ～ 23 年度に早良区早良地内において実施した発掘調査のうち、内野熊山遺跡第１次調査の発掘調査報告書である。

2．遺構の実測は上野道郎、宮原邦江、森山早苗、加藤隆也が行った。

3．縄文時代遺物の実測、観察において山崎純男、板倉有大 両氏の協力を得た。

4．製図は加集和子、加藤が行った。

5．写真は加藤が撮影した。

6．本書で用いる方位は座標北（世界測地系）である。磁北は 6° 西偏し、真北は 6° 18′ 西偏する。

7．本書に関わる図面・写真・遺物等の全資料は福岡市埋蔵文化財センターで収蔵・保管されるので、活用いただきたい。

8．本書の編集・執筆は加藤隆也が行った。

内野熊山遺跡第１次調査

遺跡調査番号	1025	遺跡略号	UKY-1
所在地	早良区早良２丁目地内	分布地図番号	S16-079I
開発面積	19ha	調査実施面積	3,149㎡
調査期間	平成22年９月16日～平成23年１月25日	事前審査番号	19-1-38

本文目次

第Ⅰ章 はじめに
1．調査に至る経過…… 1
2．調査体制…… 2

第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境 …… 3

第Ⅲ章 調査の記録
1．調査の概要…… 6
2～5．各区の調査…… 6
6．まとめ…… 34

挿図目次

Fig. 1　事業地内調査区位置図１（1/3,000）
Fig. 2　事業地内調査区位置図２（1/3,000）
Fig. 3　周辺遺跡分布図（1/25,000）
Fig. 4　内野熊山遺跡内調査区配置図 (1/1,500)
Fig. 5~7　１区遺構配置図 (1/200)
Fig. 8，9　１区出土遺物実測図 (1/2・1/1)
Fig. 10　ＳＤ－０１北壁土層断面実測図 (1/50)
Fig. 11　２区遺構配置図 (1/200)
Fig. 12~22　２区出土遺物実測図 (1/2・1/1)
Fig. 23　３区遺構配置図 (1/200)
Fig. 24　４区西側調査区遺構配置図 (1/200)
Fig. 25　４区東側調査区遺構配置図 (1/200)

図版目次

ＰＬ．1～ＰＬ．6　調査写真
ＰＬ．7～ＰＬ．8　出土遺物写真

第Ⅰ章　はじめに

1．調査に至る経過

平成19年7月23日付け、農計第387号により、福岡市農林水産局農林部農地計画課長より埋蔵文化財第1課長あてに、早良区早良2～5丁目地内における、長峰地区基盤整備促進事業にかかる「埋蔵文化財の事前審査について（依頼）」が提出された（事前審査番号19－1－38）。当該事業は平成21年度～23年度の3ヵ年にわたって、長峰地区の耕地19.0haにおいて圃場整備事業を行うものである。計画地域内には周知の埋蔵文化財包蔵地として、松木田遺跡・岸田遺跡・下兵庫遺跡・内野熊山遺跡が存在しており、書類審査を行った埋蔵文化財第1課では、計画地域全体を対象として試掘調査が必要な旨を回答した（平成19年7月24日、教埋1第1260号）。この後埋蔵文化財第1課、農地計画課および、施工主体である福岡市長峰土地改良区（樋口重剛理事長）によって協議が重ねられた。その結果平成19年8月7日付けで、福岡市長峰土地改良区理事長名で教育長山田裕嗣あてに埋蔵文化財予備調査承諾書が提出された。これを受けて埋蔵文化財第1課では平成19年8月28日～平成20年4月22日の期間で全面を対象とした試掘調査を行った。試掘調査は地権者と協議の上、耕作の行われていない田面から随時行うこととし、一部の調査不能であった田面を除いて、計画地全体に設定した。試掘トレンチの総数は321本であるが、調査後に再度耕作をするため、各トレンチは幅1m、長さ2～5mの小規模なものとなっている。この試掘調査の結果、計画地の北東側は室見川の氾濫原となり、遺構は確認されなかったが、西～南側の段丘面上を中心として濃密な遺構群が展開していることを確認した。この結果を平成20年6月4日付け、教埋1第633号で農地計画課長あてに「埋蔵文化財の事前調査について（回答）」で回答した。この回答に伴う協議で、事業実施に当たっては、工事によって埋蔵文化財の破壊が避けられない地区および施工後の保護盛土が20cm以下もしくは2m以上となる地区については発掘調査を行い、記録保存を図る必要がある旨を伝え、試掘調査結果と事業計画のすりあわせを行い、発掘調査が必要な地区と現状保存が可能な地区を明確化する作業を行うこととした。この結果、平成21年度～23年度の施工計画にあわせ、各年度4月から調査対象地について発掘調査を行うこととし、当該年度の調査地点が終了後は、次年度の要調査地点についても、地権者の了解が得られる田面については継続して発掘調査を行うこととした。また、調査中においても計画高の見直しを行い、積極的に遺構の保存を図ることとした。

以上の協議を行ったうえで、平成21（2009）年4月15日～平成22（2010）年10月7日の期間で松木田（まつきだ）遺跡第4次調査（遺跡略号：MKD-4、調査番号：0905）、平成21（2009）年10月27日～平成22（2010）年10月19日で岸田（きしだ）遺跡第1次調査（遺跡略号：KID-1、調査番号：0930）、平成22（2010）年9月16日～平成23（2011）1月25日で内野熊山（うちのくまやま）遺跡第1次調査（遺跡略号UKY-1、調査番号：1025）、平成23（2011）年7月4日～平成23（2011）8月19日で長峰谷口（ながみねたにぐち）B遺跡第1次調査（遺跡略号:NGB-1、調査番号:1111）の調査を行った。なお、整理作業は調査に並行して行い、報告書は平成24年度から3ヵ年で刊行予定である。

発掘調査に当たっては地元施工主体である福岡市長峰土地改良区の地権者の皆様方には、多大なるご理解とご協力をいただき、土地の借用をはじめとして有形・無形のご援助を賜りました。また、地元住民の皆様、設計・施工関係者の方々にも、ご協力をいただきました。ここで、深甚の謝意を表します。

2．調査体制

【事業主体】 福岡市長峰土地改良区
【調査主体】 福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財第２課
【調査総括】 埋蔵文化財第１課長　濱石哲也
　　埋蔵文化財第２課長　田中壽夫
【事前審査】 埋蔵文化財第１課　事前審査係　吉留秀敏・星野恵美
【調査庶務】 文化財管理課管理係（平成 21 年度）／埋蔵文化財第１課管理係（平成 22・23 年度）
　　古賀とも子
【調査担当】 埋蔵文化財第２課　長家伸・加藤隆也・大塚紀宣・松尾奈緒子・阿部泰之
なお文化財部は、組織改編のため平成 24 年４月１日付で教育委員会から経済観光文化局に移管した。

ph.　対象地全景

Fig. 1　事業地内調査区位置図１（1/3,000）

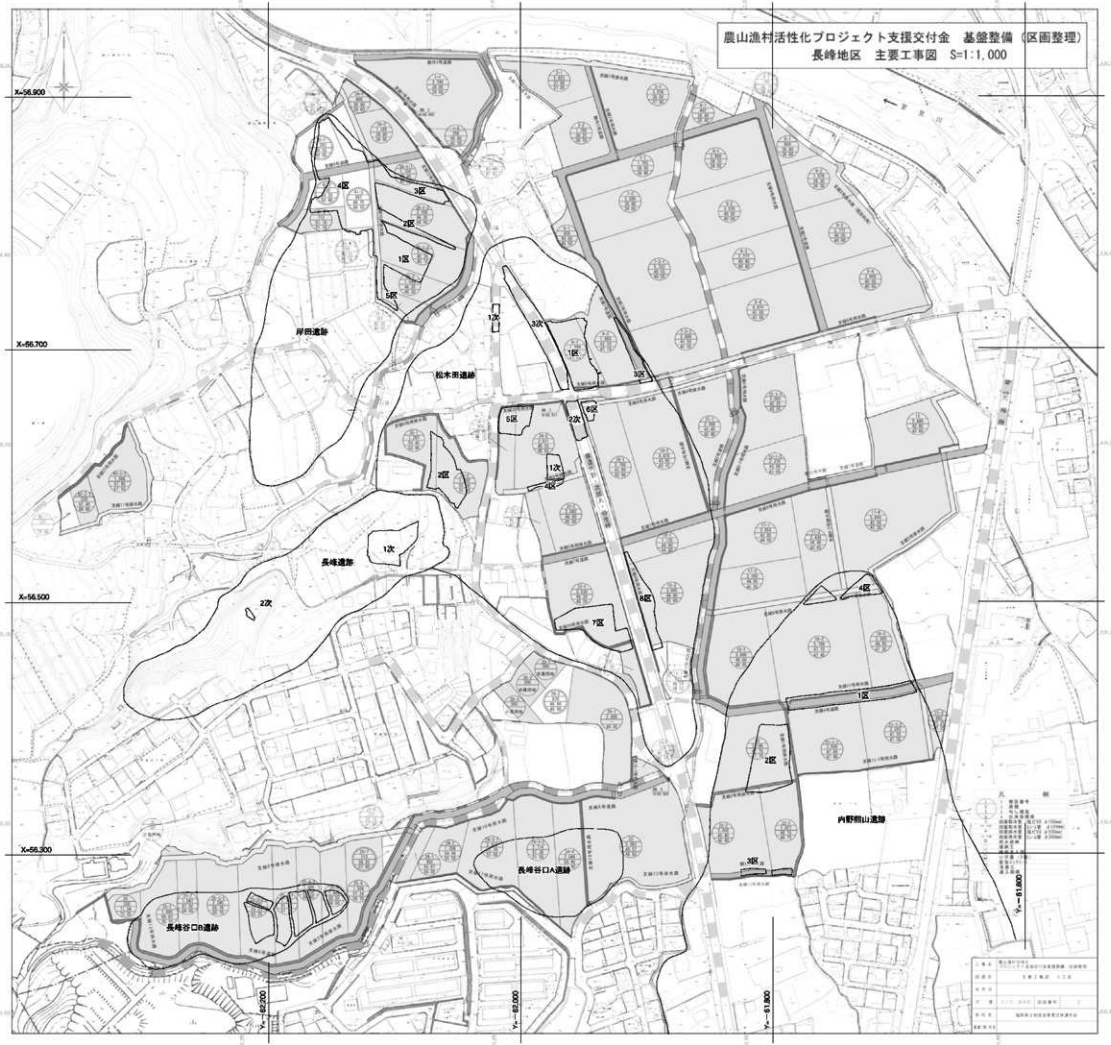


Fig. 2　事業地内調査区位置図２（1/3,000）

第Ⅱ章　遺跡の立地と歴史的環境

今回調査を行なった早良（さわら）区早良は扇形に開いた早良平野の付け根の部分に位置する。早良平野は背振山系に源を発し、北に流下する室見川によって形成された扇状地性の河成平野部を主体としている。この平野は東方を油山山地から北方に延びる飯倉丘陵に、西方を西山・飯盛・高祖山地に限られ独立した一地域の様相を呈する。かつてはこれらの山地・丘陵が郡境をなしていた。室見川にはこれらの山地から中小の河川が支流となって流入している。とくに西方の西山・飯盛・高祖山地からの流入河川が多い。これら中小の河川も各々の扇状地を形成しており、山地山麓部とともに早良平野に接続する段丘面となる。また、博多湾に流入する河口部分には砂丘と、その後背部分に湿地帯が形成され、平野内には阿蘇山噴火火砕流起源の洪積丘陵が点在している。

平野内では旧石器時代以降各時代の遺構・遺物が確認されており、概要を簡単にたどりたい。

旧石器時代の遺跡は洪積台地上及び山麓扇状地上に分布している。有田遺跡ではナイフ形石器前段階から細石器段階の石器、脇山遺跡からは細石器が出土している。その他吉武遺跡群・羽根戸原Ｃ遺跡・浦江遺跡でも遺物が認められる。

縄文時代の遺跡は前段階の遺跡に加え標高の高い山間部にも広がる。松木田遺跡からは撚糸文土器期の集石が見られる。また背振山系にかかる板屋遺跡・椎原遺跡、平野部の広石遺跡からは早期～前期の土器・石器類が出土している。その後、後晩期には遺構・遺物が増加し、四箇遺跡では後期後半の湿地層からオオムギ等の栽培種子が確認され、栽培活動が行われた可能性が高いことが推定されている。また橋本一町田遺跡からは晩期後半の遺物が多量に出土し、水田関連遺構も確認されている。なお、ここでは取り上げなかったが、後世の遺構に混入する状態で当該期の遺物が出土する遺跡は多く、その活動範囲は平野全体に及んでいる。

弥生時代になると平野各所の砂丘・洪積丘陵・沖積微高地・低丘陵上に遺跡群が展開し、安定した集落の形成が見られるようになる。また、甕棺墓を中心とした大規模な埋葬遺構群が形成される。副葬品のあり方からみると、前期末～中期初頭の段階で多数の青銅器・装身具を所有する吉武遺跡群と、少量の青銅器のみが副葬される周辺遺跡の間には大きな集落間格差が生じており、社会的な成熟が認められるが、中期後半以降の段階ではより突出した個人への権力の集中は認められず、隣接する福岡平野、糸島平野に比べて各集団の統合が緩やかな地域であったことをうかがうことができる。

古墳時代の室見川流域における首長墳を見ると、４世紀代には海岸部に五島山古墳、藤崎遺跡の方形周溝墓群が確認されている。この後、前方後円墳である羽根戸南古墳群Ｇ－２、３号墳、帆立貝式の樋渡古墳が築かれ、その後羽根戸古墳群Ｆ－２号墳が築かれる。終末期には方墳である夫婦塚１号墳・２号墳（市指定史跡）が糸島平野と繋がる幹線道沿いに存在している。本地域の群集墳には鋳造鉄斧、鉄製鍛冶具他の鉄器類、陶質土器等の渡来系遺物が副葬されるものも多く見られる。また鉄滓供献から推定できるように、この時期には鉄生産も開始されたものと考えられ、須恵器生産等を含めた当時の先進技術を受容した地域として特色付けられる。

古代には行政区画として筑前国早良郡となり、「和名抄」によると七郷が知られ、吉武遺跡群周辺は平群郷（へぐりごう）に比定されている。古代の早良奥部は、怡土郡に抜ける日向峠を擁し、怡土城の後背地であり製鉄が盛んにおこなわれる重要な地域であった。

中世には現在も痕跡をとどめる条里地割に沿う大規模な水田開発が行われ、景観的には近現代につながる村落景観が形成された。また居館跡が郡地遺跡、清末遺跡などで確認され、有田遺跡には小田部城、西油山には荒平城など中世城郭が築かれる。

本章掲載の埋蔵文化財包蔵地の範囲は平成24年3月現在の推定線であり、その後変更されている可能性があります。また、煩雑を避けるため本文に直接関係しない遺跡については省略しています。

Fig. 3　周辺遺跡分布図（1/25,000）

1.内野熊山遺跡　2.長峰谷口A遺跡　3.長峰谷口B遺跡　4.松木田遺跡　5.岸田遺跡　6.長峰甕棺遺跡　7.下兵庫町遺跡　8.鵜来巣遺跡　9.脇山A遺跡　10.広瀬遺跡　11.峯遺跡　12.中山遺跡　13.内野遺跡　14.柿木原遺跡　15.大坪遺跡　16.東入部遺跡　17.岩本遺跡　18.安通遺跡　19.清末遺跡　20.黒塔A遺跡　21.黒塔B遺跡　22.浦江遺跡　23.金武青木A遺跡　24.金武青木B遺跡　25.金武城田遺跡　26.乙石遺跡　27.都地遺跡　28.都地泉水遺跡　29.重留遺跡　30.四箇船石遺跡　31.四箇古川遺跡　32.四箇東遺跡　33.四箇遺跡　34.ヒワタシ遺跡　35.熊本遺跡　36.重留村下遺跡

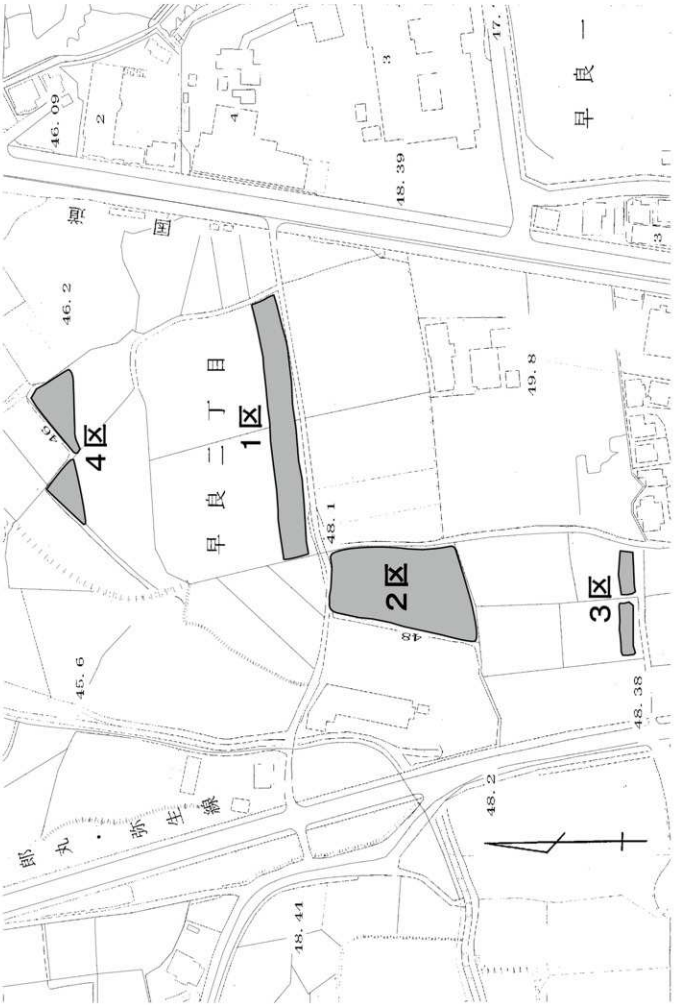


Fig. 4　内野熊山遺跡内調査区配置図（1/1,500）

第Ⅲ章　調査の記録

1．調査の概要

今回の調査地は早良２丁目地内であり、内野熊山遺跡の北側に位置している。現況は水田である。事前に行なわれた試掘調査では、縄文時代早期の撚糸文土器が出土しており、北側に位置する松木田遺跡と同様に内野熊山遺跡地内においても縄文時代の良好な遺構の存在が想定されていた。調査は、田面の切り下げ、水路掘削や恒久的構造物である道路の敷設など各原因が異なることにより、事業地内でそれぞれ調査地が離れるため、４区に分けて調査をおこなった。

2．1区の調査

調査概要

この調査区は、既存道路の振替と水路の敷設がおこなわれるため、幅約 10 m、長さ約 100 mの東西方向に長いものとなった。遺構検出作業は、耕作土を除去後、床土と約 10cm 厚の遺物を包含する暗茶褐色粘質土を剥いだ黄褐色シルト層の上面にておこなった。検出遺構は、不定形を呈する窪み状のものを複数確認した。覆土は上層の暗茶褐色粘質土と大きな差異はなく、遺構壁面も不整形であり、人為的な掘削によるものとは考えられなかった。ただし、一定量の縄文時代を主体とする土器や石器を包含しているため、掘削と記録をおこなった。掘削作業にあたり、遺物が出土したものには 0001 から番号を付与し、遺物の取り上げを行なった。今回の報告では、煩雑さを避けるため 001 からの３桁による表記をおこなった。また、掘削作業と平行して、２本の深掘トレンチにより、遺構検出面である黄褐色シルト層の下位状況を確認した。１本目の深掘トレンチは調査区東寄りに東西方向に設定した。層序は上から 130cm の黄褐色シルト層、40cm の灰色細砂層の下層は粗砂と人頭大の礫混じり層となり、遺構検出面から 270cm で湧水点となった。２本目の深掘トレンチはやや中央寄りに南北方向に掘削をおこなった。層序は基本的に同じであるが、黄褐色シルト層の堆積が厚く約 150cm であった。その上位は暗褐色にヨゴレており、その変化は漸位的である。遺物等は細片を含めて出土していない。その下は灰色細砂、粗砂と人頭大礫混じり層となり、遺構検出面より 290cm 下で湧水点となった。

土質や色調の顕著な差異による調査をおこなったが、最後に縄文時代遺構の遺存が考えられているため、集石遺構、焼土面の確認を目的に、調査区内に世界測地系座標を基準とする 10 m ×10 mのグリッドを設定し、遺構検出面である黄褐色シルト層のヨゴレの著しい調査区西側を中心に、グリッド毎による掘削調査をおこない１区の全調査を終了した。

遺構と遺物

遺物が出土した不定形を呈する窪み状のものは、63 基を数える。分布密度は、調査区の中央部が高い傾向を示している。覆土は、暗茶褐色砂質～粘質土である。いずれからも縄文時代の土器片を中心とする遺物が出土している。001 は調査区西側北端に位置する。平面形は長軸 3.5 mの楕円形を呈しており、深さは約 106cm 遺存し、断面は擂鉢形をなしている。縄文土器片が２点出土している。調査区西寄りに位置する 007 は、平面は長軸約 70cm の不定形の窪み状を呈する。遺存する深さは約 40cm であり、016 の三万田式精製鉢片が出土した。調査区中央部北寄りにて検出された 011 の平面は長軸約 2.4 mの不定形を呈し、最大残存深さは 10cm である。北側からは、017 の縄文時代前期ごろと考えられる石斧が出土した。

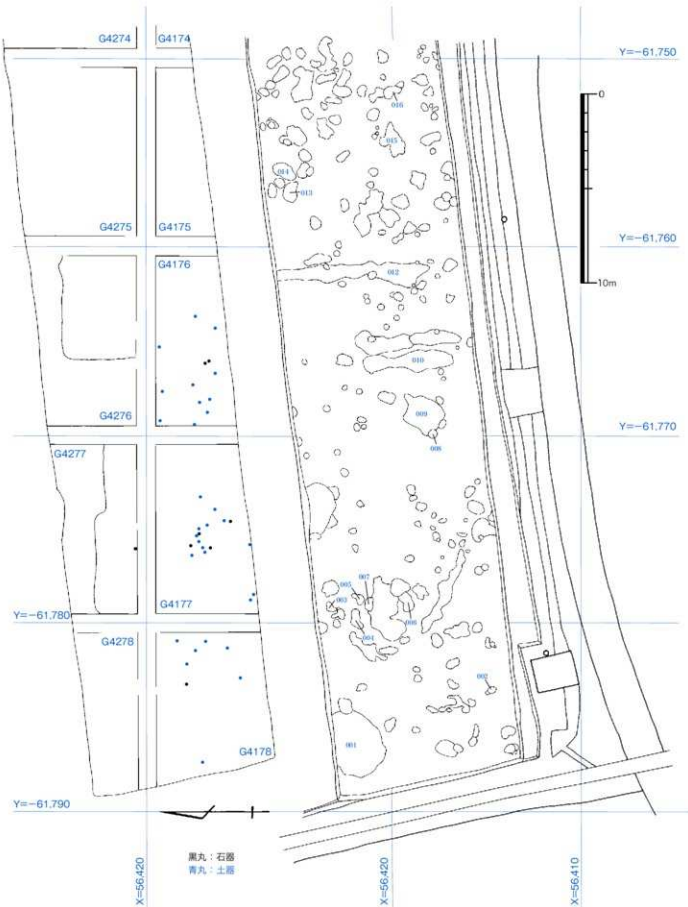


Fig. 5　1区遺構配置図（1/200）

Fig. 6　1区遺構配置図（1/200）

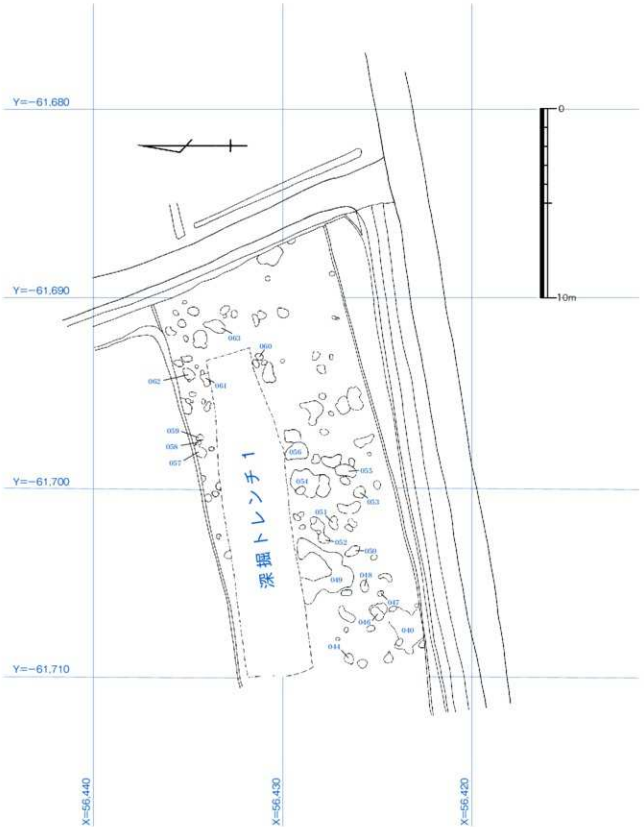


Fig. 7　1区遺構配置図（1/200）

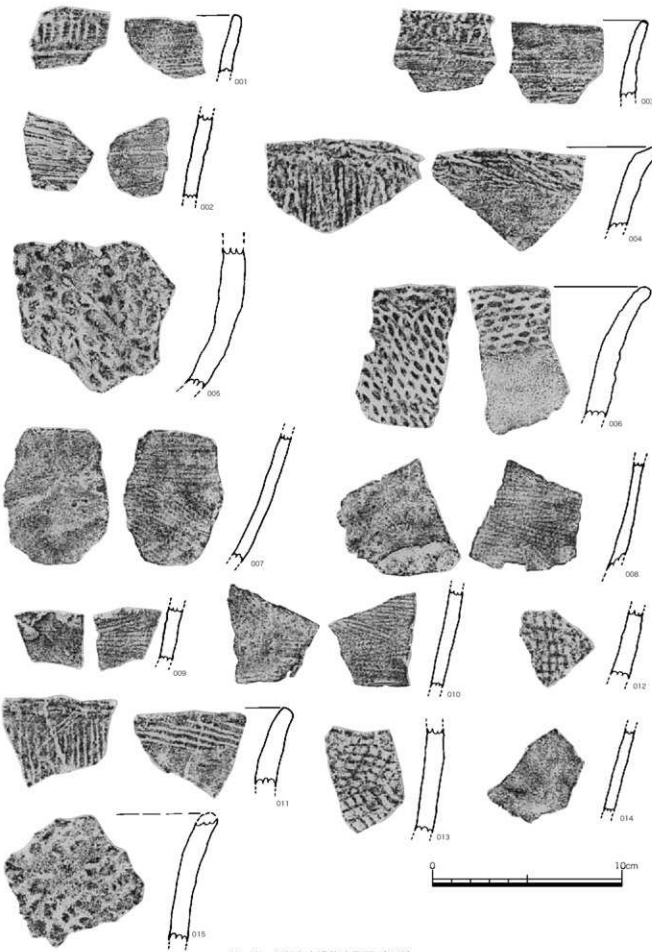


Fig. 8　1区出土遺物実測図（1/2）

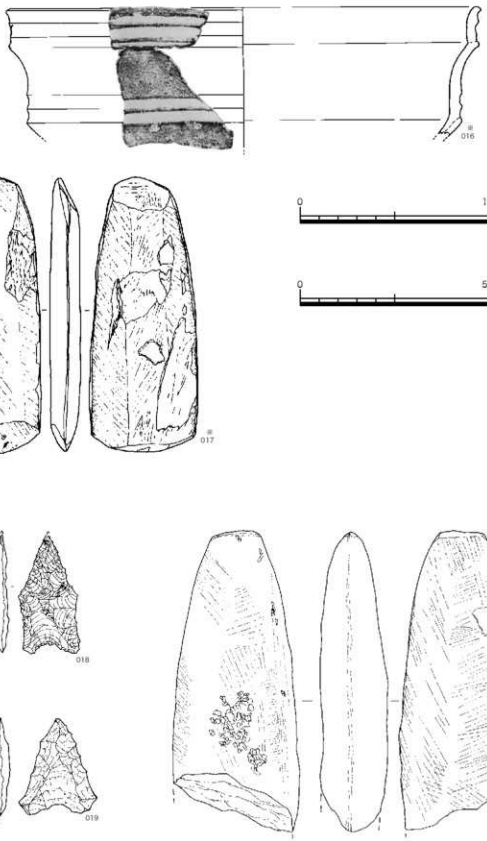


Fig.9　1区出土遺物実測図（1/2・1/1）

1区出土土器観察表

遺物番号	グリッド	器種	胎土	焼成	内面(色調・調整)	外面(色調・調整)	備考	X=56,000 Y=-61,000 に+値	Y=-61,000 に-値	レベル(m)
001	4176	深鉢	粗良　石英、長石、角閃石少なく含む	良好	鈍い黄橙　貝殻条痕	黄褐　貝殻縁刺突文(口唇～口縁上端)	前期末か	419.3	769.2	47.07
002	4176	深鉢(胎製)	良　石英、長石、角閃石含む	良好	明黄褐　貝殻条痕	黒　貝殻条痕	後期	419.2	767.6	47.12
003	4176	深鉢	良　石英、長石含む	良好	鈍い黄橙　貝殻条痕	鈍い黄橙　貝殻条痕→貝殻縁刺突文(口唇～口縁)	前期末か	416.3	764.3	46.99
004	4176	深鉢	石英、長石、角閃石多く含む	良好	黄灰色　ナデ→擦(横)	褐灰　擦糸(タテ)　木目状	早期　擦糸文土器	419.3	765.4	47.09
005	4177	深鉢	粗　正長石(5mm)、石英、雲母多い	良好	黒褐　ユビオサエ残り凹凸なす	鈍い黄橙　大型楕円押型文(10×8mm)	早期　押型文土器	414.5	778.8	47.02
006	4177	深鉢	石英、長石、角閃石含む	良好	灰黄　ナデ→押	鈍い黄褐　小楕円押型文(7×3mm)	早期　押型文土器	417.6	776.4	46.96
007	4177	深鉢	良　石英、長石少なく含む	良好	浅～鈍い黄橙　条→ナデ	鈍い黄橙　条→ナデ	早期	417.0	776.2	47.09
008	4177	深鉢	良　石英、長石少なく含む	良好	明黄褐　条→ナデ	鈍い黄橙　ナデ	早期	417.1	776.1	46.97
009	4177	深鉢	石英、長石の細かい砂粒を含む、精製された質	良好	外面よりやや明るい黄褐色	黒褐色　前面～横位のやや細かい貝殻条痕(多い)　貝殻縁刺突文	前期末か	417.3	775.7	47.05
010	4177	深鉢	良　石英、長石少なく含む	良好	鈍い黄橙　貝殻条痕	褐灰　貝殻条痕→ナデ	後期	419.1	774.1	47.10
011	4178	深鉢	石英、長石含む、角閃石目立つ	良好	黒褐　擦糸文	黒褐　擦糸文	早期　擦糸文土器	415.8	781.3	46.79
012	4178	深鉢	粗　石英、長石、輝石多い	やや不良	黒褐　ナデ	黒褐　格子目押型文	早期　押型文土器	417.9	782.2	47.00
013	4178	深鉢	石英、長石多い	やや不良	鈍い橙	鈍い橙　格子目押型文	早期　押型文土器	417.5	781.4	46.98
014	4178	深鉢	良　細かい石英、長石含む	良好	浅黄橙	明黄褐　ナデ	早期	416.9	781.0	46.90
015	4178	深鉢	粗　石英、長石、輝石多い	良好	鈍い黄橙	鈍い黄褐　大楕円押型文(10×7mm)	早期　押型文土器	418.4	781.0	46.88
016	4277	鉢(精製)	精良　石英少なく含む	良好	黒　ミガキ	黄褐　ミガキ	後期　三万田式	421.2	778.9	47.12

1区出土石器観察表

遺物番号	グリッド番号	種類	石材	重量(g)	X=56,000に+値	Y=-61,000に-値	備考
017	4274	石斧		185.1	426.5	749.0	ほぼ完存
018	表採	石鏃	黒曜石	1.6	—	—	
019	表採	石鏃	安山岩	1.6	—	—	
020	表採	石斧		612.0	—	—	2/3遺存

ph.　調査区周辺状況（東から）

3．2区の調査

調査概要

この調査区は、調査１区の南西に位置している。田面全体の切下げ工事をおこなう計画のため、田面１面分を調査区として設定した。土層堆積の基本層序は上層から、約 25cm の現耕作土と床土、約 20cm の黄褐色シルトと灰褐色砂質土とが混じる盛土、約 5cm の灰褐色砂質土、約 15cm の灰茶色砂質土、約 5cm の黄褐色砂質土、約 20cm の暗茶褐色砂質土の下層が遺構検出面である黄褐色シルト層となる。１区と同様に座標 X＝56,360、Y＝－61,810 の地点に深掘トレンチを設定し、黄褐色シルト層より下層の状況を確認した。基本層序は次のとおりであった。上から約 90cm の黄褐色砂質土と拳大礫混じり層、約 100cm の人頭大礫層（大型礫も混じる）、その下層は粗砂と礫の混じる層で上面から約 250cm で湧水点となった。

遺構検出作業は、耕作土等を除去後、黄褐色シルト層の上面にておこなった。検出遺構は１区と同様の不定形を呈する窪み状のものと溝（SD－01）を検出した。掘削調査は、まず溝（SD－01）から着手したが、溝の掘方確認トレンチの溝掘方の更に下から押型文期土器が出土したことと、不定形窪みに人為的な掘削痕跡がみられないことから、溝（SD－01）以外の調査は世界測地系座標を基準とする 10ｍ×10ｍのグリッドを設定し、黄褐色シルト層のヨゴレの著しい部分を中心に、グリッド毎による掘削調査をおこない２区の全調査を終了した。

遺構と遺物

溝（SD－01）は調査区の北東寄りで、調査区に平行するように検出された。このことから現在の水路を含む地割りにも影響する遺構であると考えられる。溝はやや蛇行しながら、磁北に近似する W-5°-N（座標北）の方位をもち北流しており、残存する幅は２～３ｍ、深さは約 50cm である。早良平野内の条里地割とはやや方位が異なる。堆積土層の状況と底面に更に溝がみられることから、幾度かの溝の掘り直しがおこなわれていると考えられる。覆土は茶灰色や灰茶色の砂質土であり、水の流れがあったことがうかがわれる。出土遺物は多くないが、龍泉窯系青磁碗片、外底部糸切りによる土師皿片や滑石製石鍋の破片が出土しており、中世以降に埋没したと考えられる。

10ｍ×10ｍグリッドによる調査は、世界測地系座標を基準とするグリッドを設定し、各グリッドの名称はグリッドの南東隅の杭座標を使用し、X・Y座標のｍ値下３桁の上２桁の数値を併記した。例えば、G 3880 グリッドの南東隅杭の数値が X＝56,380 m、Y＝－61,800 mであることを示している。この表記方法は、今回おこなったすべての調査区のグリッド呼称に踏襲されている。

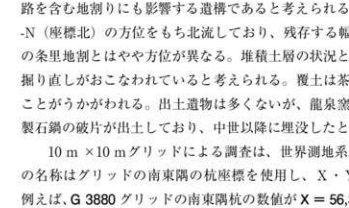


Fig. 10　SD－01北壁土層断面（1/50）

グリッドの掘削は黄褐色シルト層のヨゴレの著しい部分からおこない、出土する遺物密度の高い方向へグリッドを設定していった。作業はスコップにて地山層を縦方向に極力薄く剥ぎ、遺物を確認する毎にそのポイントを 100 分の１平板にて測量し、レベル値を計測した。調査は、まず北側の G 3880 からおこない、遺物の出土状況から東と南方向に掘削調査を進めていった。報告や表の記述は、現場作業過程とは逆に

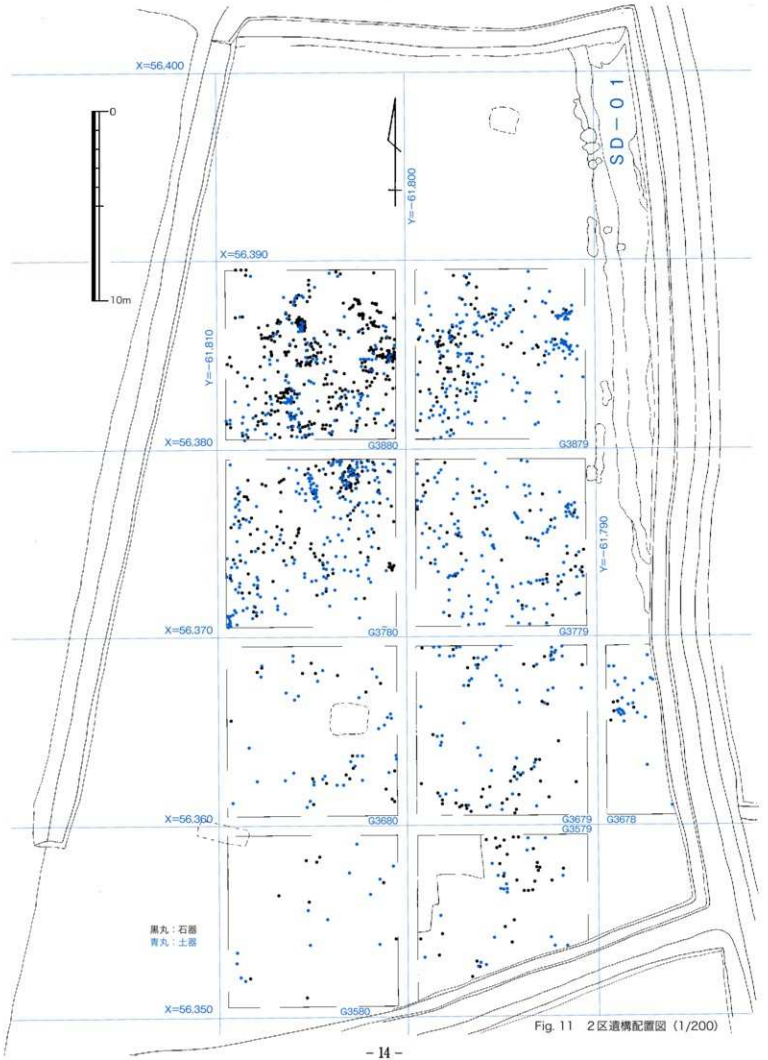


Fig. 11　2区遺構配置図（1/200）

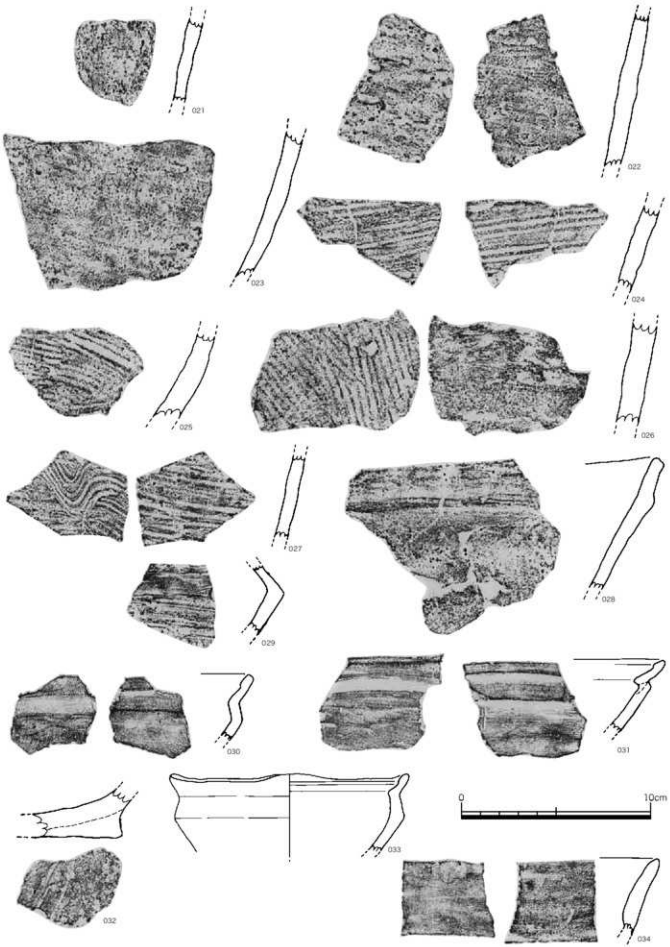


Fig. 12　2区出土遺物実測図１（1/2）

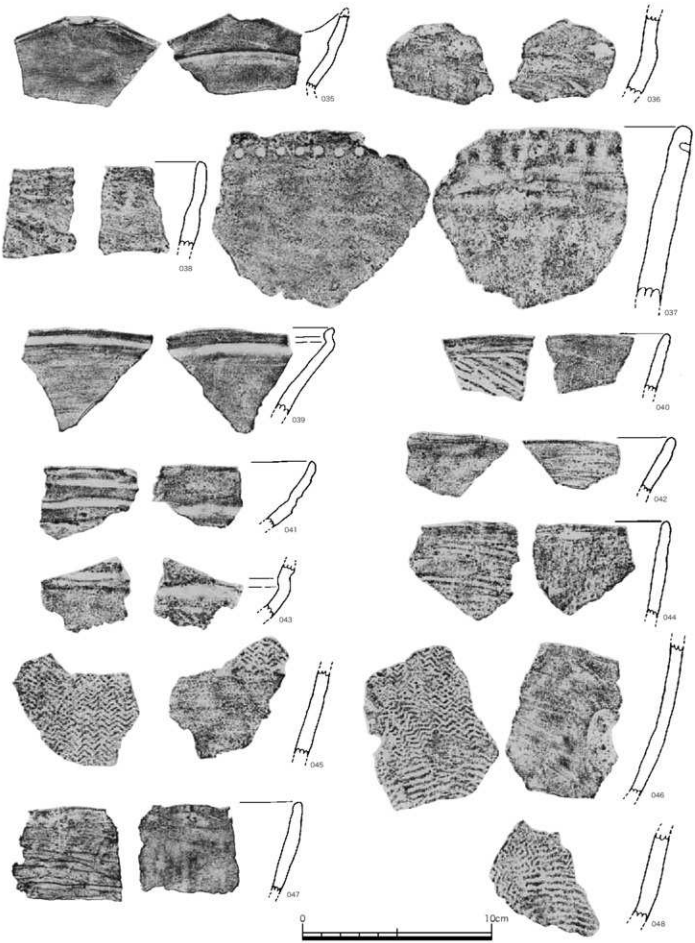


Fig. 13　2区出土遺物実測図２（1/2）

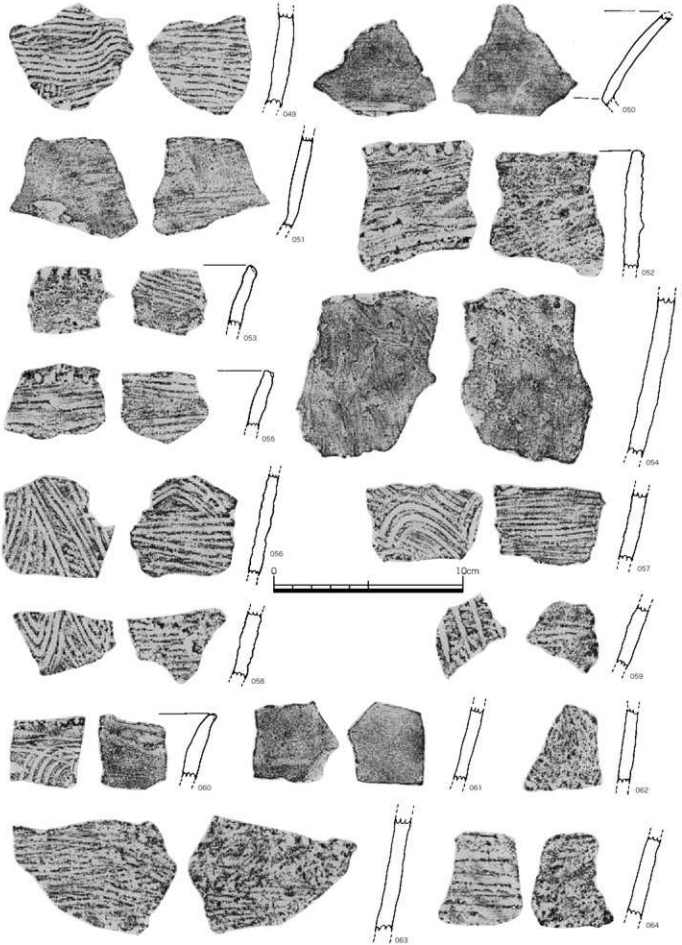


Fig. 14　2区出土遺物実測図3（1/2）

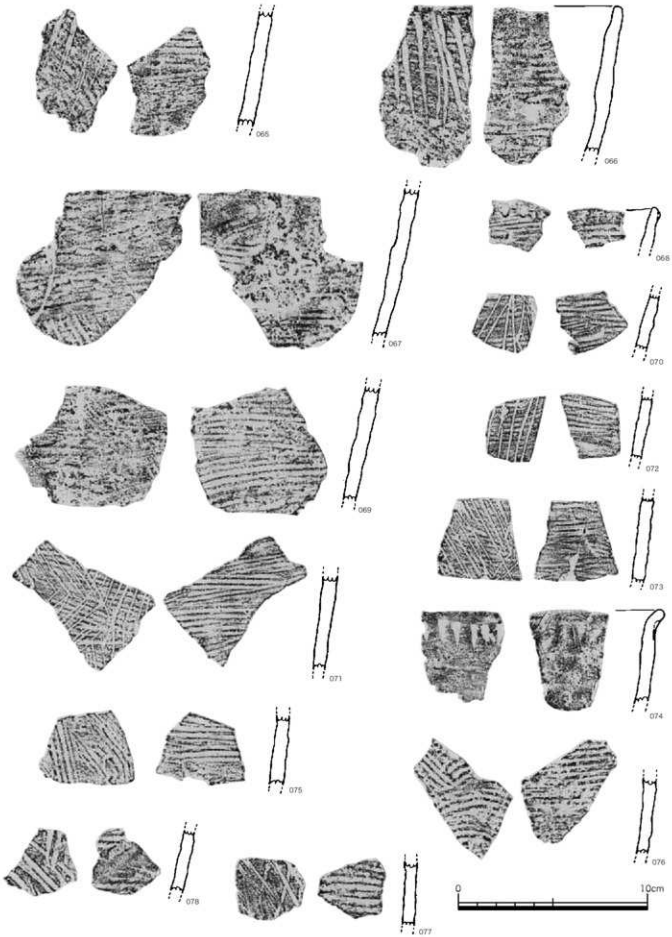


Fig. 15　2区出土遺物実測図４（1/2）

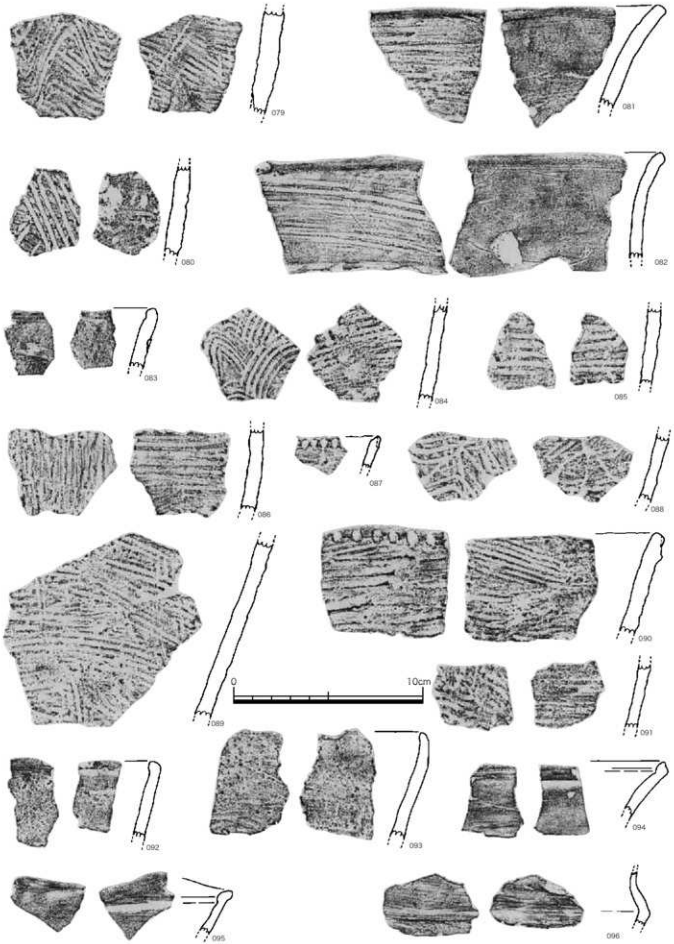


Fig. 16　2区出土遺物実測図５（1/2）

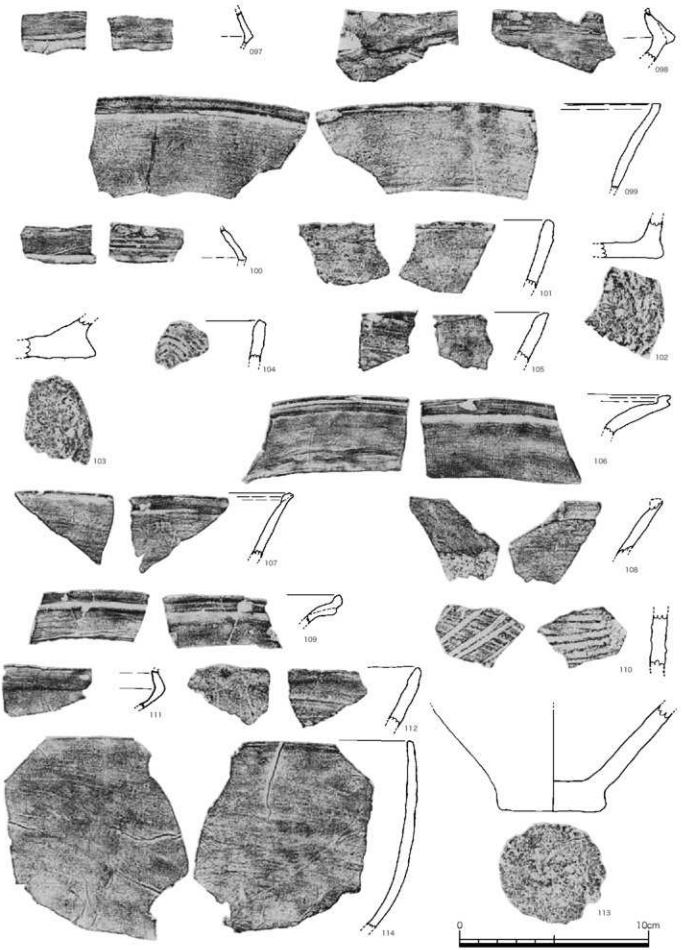


Fig. 17　2区出土遺物実測図６（1/2）

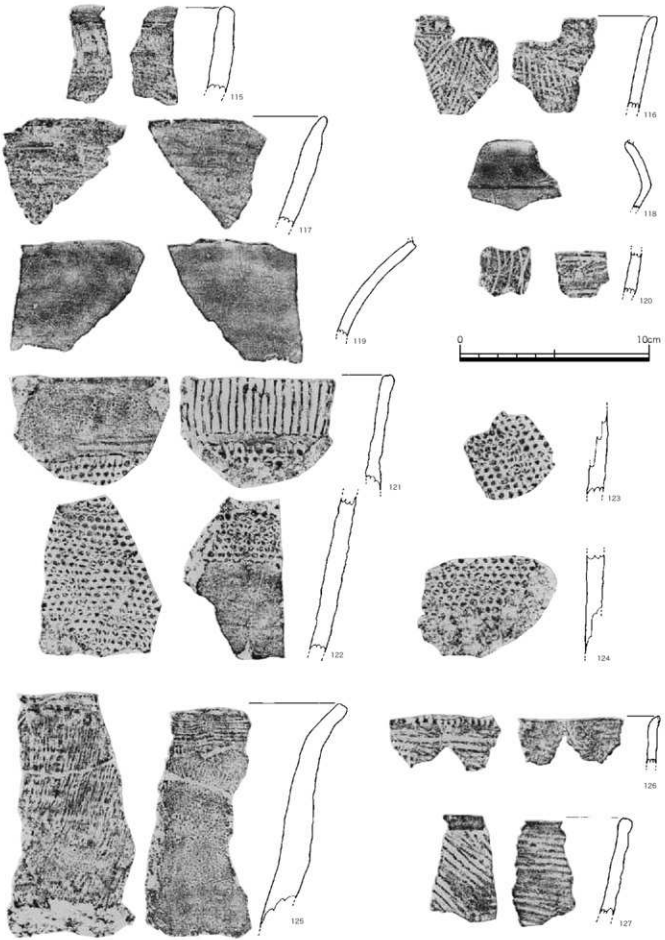


Fig. 18　2区出土遺物実測図７（1/2）

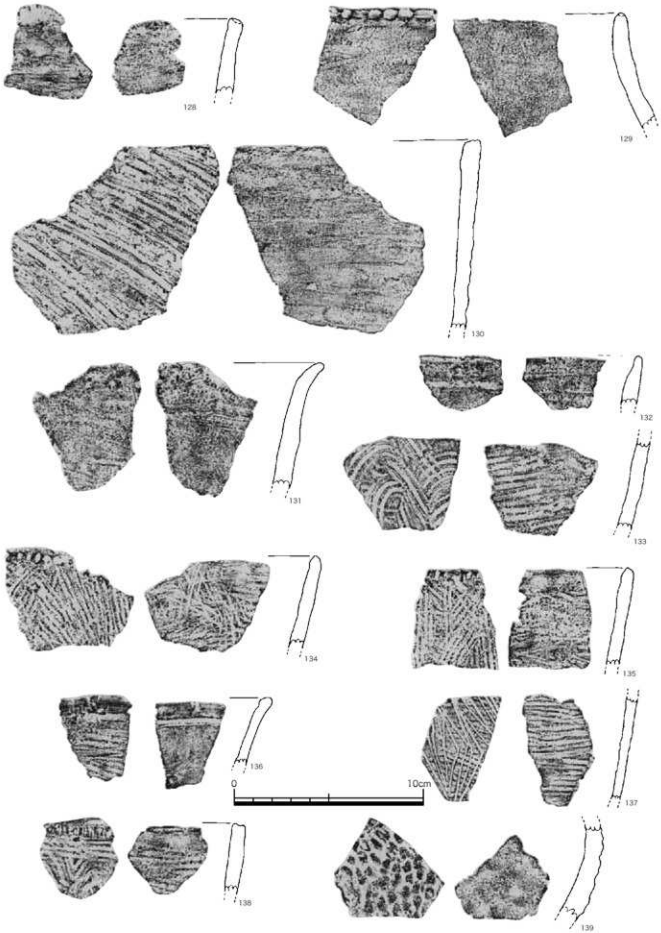


Fig. 19　2区出土遺物実測図８（1/2）

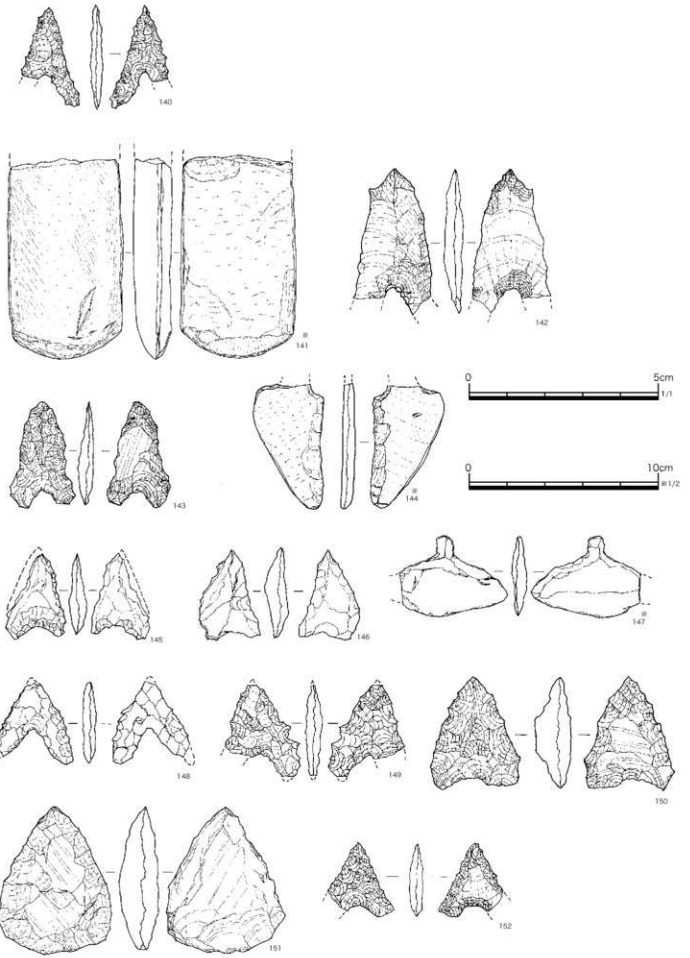


Fig.20　2区出土遺物実測図9（1/2・1/1）

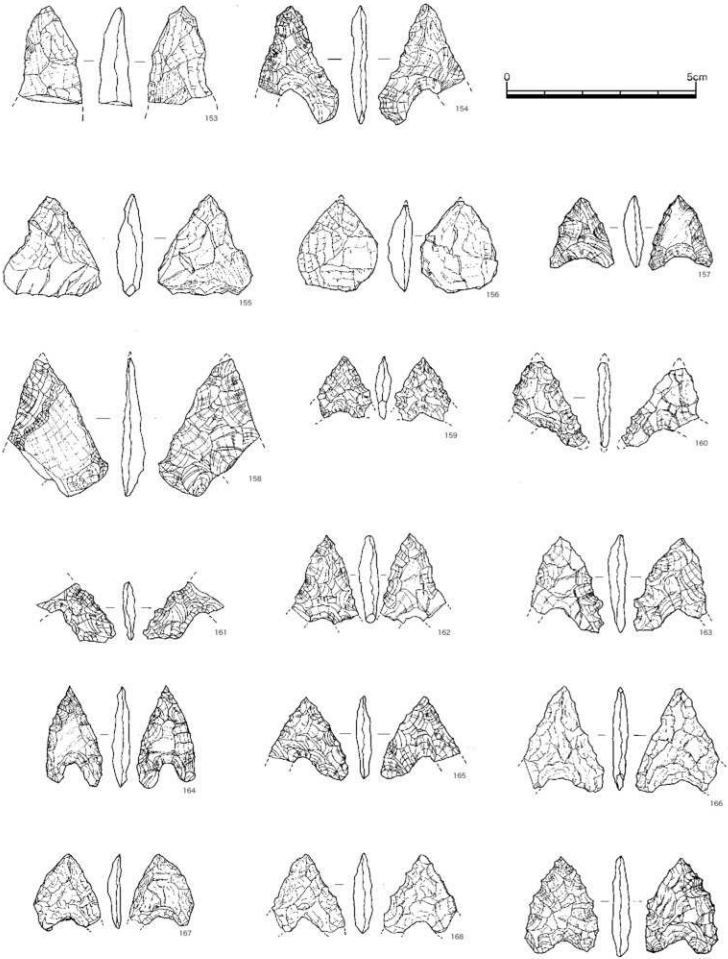


Fig.21　2区出土遺物実測図 10（1/1）

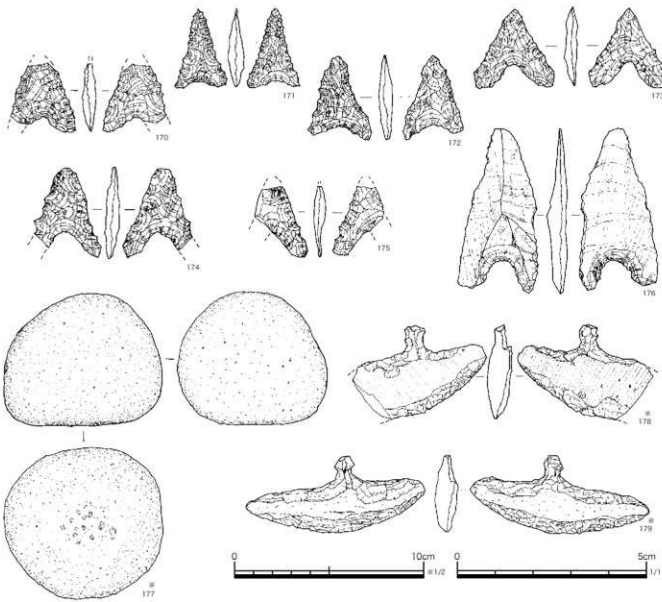


Fig. 22　2区出土遺物実測図 11（1/2・1/1）

なるが便宜上数値の小さいG 3579からおこなう。G 3579とG 3678は作業期間の関係からグリッド全面を掘削調査することができなかった。G 3579では石鏃 140を含む剥片などの石器が32点、土器片20点、計52点の遺物が出土した。G 3580では石斧 141、石鏃 142を含む剥片などの石器が11点、土器12点、計23点の遺物が出土した。G 3678では7点の石剥片、23点の土器片、計30点の遺物が出土した。G 3679では黒曜石、安山岩の剥片46点、土器57点、計103点の遺物が出土した。G 3680では黒曜石、安山岩の剥片20点、38点の土器片、計58点の遺物が出土した。G 3779では143の黒曜石製石鏃、144の安山岩製石匙を含む剥片などの石器が49点、土器124点、計173点の遺物が出土した。G 3780では145、146、148 ～ 152までの黒曜石、安山岩製石鏃7点を含む剥片など124点、土器片192点、計316点の遺物が出土した。G 3879では153の安山岩製槍先、154 ～ 158までの黒曜石、安山岩製石鏃を含む剥片など81点、土器片168点、計249点の遺物が出土した。 G 3880では159 ～ 169までの黒曜石、安山岩製石鏃11点を含む剥片などの石器が81点、土器片168点、計436点の遺物が出土した。2区では、合計1,440点の石器や土器の出土ポイントの記録をおこなった。また、表土剥時や遺構検出作業中に170 ～ 179の遺物をはじめとする多くの石鏃、石匙、敲石、黒曜石剥片、安山岩剥片や土器片が出土した。

2区出土土器観察表

遺物番号	グリッド	器種	胎土	焼成	内面(色調・調整)	外面(色調・調整)	備考	X=56,000に+値	Y=−61,000に−値	レベル(m)
021	3579	深鉢	良　石英、長石、雲母含む	良好	黒　ナデ	鈍い橙　ナデ	後期	352.8	796.3	47.87
022	3579	深鉢(粗製)	石英、長石、角閃石含む	良好	浅黄　貝殻条痕	浅黄橙　貝殻条痕　アバタ状小孔	晩期	352.6	796.4	47.85
023	3579	深鉢(半精製)	良　石英、長石、雲母含む	良好	黒褐　丁寧なナデ	黄褐　ナデ	後～晩期	356.7	795.0	47.74
024	3579	深鉢(粗製)	良　石英、長石、角閃石細かく含む	良好	黒褐　貝殻条痕	明黄褐　貝殻条痕	後～晩期	357.4	795.3	47.77
025	3580	深鉢	石英、長石含む	良好	褐　ナデ	鈍い黄橙　横位貝殻条痕	早期　条痕文土器	351.8	808.8	47.72
026	3580	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	浅黄橙　ナデ	黒褐　タテ　貝殻条痕　種実の脱落痕跡あり	早期　条痕文土器	352.1	809.0	47.61
027	3678	深鉢(粗製)	良　石英、長石含む	良好	鈍い黄褐　貝殻条痕	橙　貝殻条痕　波状文	晩期	369.0	787.3	47.68
028	3678	鉢(精製)	良　石英、長石含む	良好	灰黄　ナデ	黒褐　条痕→ナデ　口縁部はミガキ	晩期　波状口縁	365.5	788.6	47.63
029	3679	鉢(半精製)	良　石英、長石少なく含む	良好	灰黄　ミガキ	鈍い黄橙　上 ナデ　下 貝殻条痕	晩期	369.2	792.2	47.72
030	3679	浅鉢(精製)	良　石英、長石僅かに含む	良好	黒　ミガキ	黒　ミガキ	晩期　黒川式	368.4	796.3	47.72
031	3679	浅鉢(精製)	良　砂粒少ない	良好	灰黄褐　ミガキ	黒　ミガキ	晩期　黒川式	367.7	795.1	47.74
032	3679	深鉢(粗製)	石英、長石、雲母多い	良好	鈍い黄　ナデ	鈍い黄褐　ナデ	晩期	361.0	793.2	47.78
033	3679	小型浅鉢(精製)	良　細かい石英、長石、雲母	良好	鈍い黄褐　ミガキ	鈍い黄橙　ミガキ	晩期　黒川式 復元頸部内径:10.4cm 復元頸部外径:11.5cm	361.1	795.7	47.68
034	3679	鉢(精製)	精良　砂粒をほとんど含まない	良好	鈍い橙　ナデ	鈍い橙　ナデ	晩期　黒川式	364.8	798.2	47.77
035	3679	浅鉢形土器	石英、長石の細かい砂粒を少量混入	良好	黒褐色　口縁部横方向の丁寧なヘラ研磨調整	黒褐色　口縁部横方向の丁寧なヘラ研磨調整	晩期　黒川式	369.5	797.4	47.69
036	3679	深鉢	石英、長石、金雲母、 貝殻のやや大きい粒子を 多量に混入	良好	灰褐色	黒褐色(黒色が強い)	晩期　黒川式	369.5	797.4	47.69
037	3680	深鉢	良　石英、長石含む、角閃石多い	良好	浅黄　ナデ	褐色　ナデ　φ4㎜棒状工具刺突文　丁寧な施文	早期　柏原式	361.2	809.3	47.82
038	3680	深鉢(粗製)	石英、長石、角閃石含む	良好	黒褐　貝殻条痕→ナデ	黒褐　貝殻条痕	晩期	365.7	801.0	47.70
039	3779	鉢(精製)	良　石英、長石少なく含む	良好	黒褐　ミガキ	黒褐　ミガキ	晩期　古閑～黒川式	376.7	791.5	47.63
040	3779	深鉢(粗製)	石英、長石、角閃石含む	良好	鈍い黄橙　ナデ	橙　斜位貝殻条痕　口縁上端　ナデ・波線	晩期	373.3	790.7	47.66
041	3779	浅鉢	石英、長石含む	良好	明赤褐　ナデ	赤橙　ナデ　凹線	晩期　古閑式	372.0	795.8	47.76
042	3779	鉢(半精製)	石英、長石、角閃石含む	良好	鈍い黄褐　貝殻条痕→ナデ	褐　貝殻条痕→ナデ	晩期	372.4	795.2	47.78
043	3779	鉢(半粗製)	石英、長石多い	やや不良	浅黄	赤橙　凹線	晩期　古閑式	374.8	795.5	47.71
044	3779	深鉢(粗製)	石英、長石多い	良好	黒　ナデ	黒褐　貝殻条痕	晩期	373.5	798.4	47.66
045	3779	深鉢	石英、長石含む、角閃石目立つ	良好	灰黄　ナデ　口縁外面　山形押型文　幅7~8㎜　高さ3㎜	黄灰　口縁外面　山形押型文　幅7~8㎜　高さ3㎜	早期　押型文土器	375.8	797.2	47.61
046	3779	深鉢	石英、長石、角閃石含む	良好	灰黄褐　ナデ	鈍い黄橙　小山形押型文　8×3㎜	早期　押型文土器	375.8	797.2	47.61
047	3779	深鉢(半粗製)	石英、長石含む	良好	黒　粗いヘラナデ～ミガキ	褐灰　貝殻条痕→粗いヘラナデ	晩期	378.4	797.3	47.67
048	3779	深鉢	石英、長石含む、角閃石目立つ	良好	黒　ナデ	鈍い黄橙　山形押型文　8×3㎜	早期　押型文土器	378.9	798.2	47.43
049	3779	深鉢(粗製)	石英、長石多い	良好	橙　貝殻条痕	橙　貝殻条痕	晩期　黒川式	376.9	799.5	47.49
050	3779	鉢(精製)	石英、長石多い	良好	黒　ミガキ	鈍い黄橙　ミガキ　凹線	晩期　古閑式	373.3	797.6	47.53
051	3779	深鉢(粗製)	石英、長石、角閃石、雲母、輝石含む	良好	黒褐　貝殻条痕	鈍い黄橙　貝殻条痕→ナデ	晩期	373.6	797.1	47.39
052	3780	深鉢	石英、長石の細かい 粒子を混入。 全体に良質である。	良好	黒褐色	黒褐色　口唇刻目文 横方向の粗い貝殻条痕。 条痕間に粗いミミズ腫れ状の突線	晩期　黒川式末	377.0	802.7	47.65
053	3780	深鉢	石英、長石多い	良好	黒褐　撚糸文	褐　口唇部刻目文	早期　撚糸文	377.8	803.5	47.68
054	3780	深鉢	石英、長石含む	良好	浅黄橙　ナデ	鈍い黄橙　ナデ	早期　無文	378.2	803.3	47.48
055	3780	深鉢	石英、長石含む	良好	黒　貝殻条痕	黒褐　貝殻条痕　口唇刻目文	晩期　黒川式末	378.3	803.0	47.54
056	3780	深鉢(粗製)	石英、長石の砂粒を混入、比較的良好	良好	灰褐色～黒褐色　下半横方向→波状	黄褐色～褐色　内外面共粗い貝殻条痕　外　横方向→斜位	晩期	378.6	802.7	47.64
057	3780	深鉢(粗製)	石英、長石少ない	良好	鈍い黄橙　貝殻条痕	鈍い黄橙　貝殻条痕	晩期　黒川式	379.2	802.3	47.65
058	3780	深鉢	石英、長石、金雲母の 細かい粒子を混入。 精製され良質	良好	黄～灰褐色　横方向の やや粗い貝殻条痕	黒褐色　貝殻条痕(波状) 凹部分にスス付着	晩期　黒川式	379.2	802.6	47.65
059	3780	深鉢(粗製)	石英、長石含む	良好	褐　貝殻条痕	黒褐　貝殻条痕	晩期	378.9	803.0	47.67
060	3780	深鉢	良　石英～輝石細粒、雲母目立つ	良好	鈍い黄橙　ナデ	黒褐　貝殻条痕　口唇部刻目文	晩期　黒川式末	379.3	803.9	47.68
061	3780	鉢(半精製)	石英、長石少なく含む、精良	良好	鈍い黄褐　ミガキ	黒　貝殻条痕→ナデ	不明	379.1	804.4	47.69
062	3780	深鉢(粗製)	石英、長石多い	良好	鈍い黄橙	橙　貝殻条痕	後晩	373.4	805.4	47.73
063	3780	深鉢(粗製)	石英、長石含む	良好	黒　貝殻条痕　炭化物	黄褐　貝殻条痕	晩期	377.9	804.9	47.59
064	3780	深鉢(粗製)	石英、長石含む	良好	黒褐　貝殻条痕	黒褐　貝殻条痕	晩期	377.9	804.9	47.59
065	3780	深鉢(粗製)	石英、長石含む	良好	黄灰　貝殻条痕	黒褐　貝殻条痕	晩期	378.7	805.1	47.61
066	3780	深鉢(粗製)	石英、長石含む	良好	黒褐　貝殻条痕	黒褐　貝殻条痕	晩期	378.5	805.0	47.68
067	3780	深鉢(粗製)	石英、長石含む	良好	黒褐 貝殻条痕 炭化物	鈍い橙　貝殻条痕	晩期	378.2	805.0	47.66
068	3780	深鉢	石英、長石含む	良好	黒　貝殻条痕	黒褐　貝殻条痕　口唇部刻目文	晩期　黒川式末	377.9	805.0	47.57

遺物番号	グリッド	器種	胎土	焼成	内面(色調・調整)	外面(色調・調整)	備考	X=56,000に+値	Y=-61,000に-値	レベル(m)
069	3780	深鉢	石英、長石含む	良好	暗褐　貝殻条痕	鈍い黄褐　貝殻条痕	晩期	378.2	805.8	47.64
070	3780	深鉢(粗製)	石英、長石含む	良好	黄灰　貝殻条痕	暗褐　貝殻条痕→沈線文	晩期	372.8	807.9	47.65
071	3780	深鉢(粗製)	石英、長石含む	良好	暗褐　貝殻条痕	褐　貝殻条痕→沈線文	晩期	372.8	808.1	47.67
072	3780	深鉢	細粒石英、長石含む	良好	暗褐　貝殻条痕	暗褐　貝殻条痕→沈線文	晩期	373.1	807.9	47.67
073	3780	深鉢	石英、長石、貝殻の 細かい粒子を混入。 精製され良質	良好	黒褐色　横方向の貝殻条痕を地文とし、上から斜位の細かい沈線の斜線を施文。一部、反対からの斜線と重なり菱形文となる。	黒褐色　貝殻腹縁の押圧1.3cm(幅) 横方向の貝殻条痕(浅い)	晩期	373.2	808.0	47.66
074	3780	深鉢	粗　石英、長石含む	良好	赤褐　ナデ　ユビオサエ	橙　ナデ　棒状工具刺突文	早期　柏原式	376.3	808.5	47.66
075	3780	深鉢	細石英、長石含む　雲母やや目立つ	良好	赤褐　貝殻条痕	黒褐　貝殻条痕	晩期	372.6	809.1	47.66
076	3780	深鉢	粗石英、長石含む	良好	橙　貝殻条痕	赤褐　貝殻条痕	晩期	370.7	809.4	47.58
077	3780	深鉢	粗石英、長石少なく含む	良好	黄褐　貝殻条痕	浅黄　貝殻条痕	晩期	371.1	809.5	47.62
078	3780	深鉢	粗石英、長石少なく含む	良好	鈍い黄　貝殻条痕	鈍い黄　貝殻条痕	晩期	371.3	809.3	47.66
079	3780	深鉢	石英、長石、金雲母、 貝殻の粒子を混入。 精製され良質	良好	赤褐色 波状の貝殻条痕が重なり合う	黒褐色　スス付着　横・斜位の貝殻条痕 条痕の幅1.6cm	晩期	371.5	809.2	47.66
080	3780	深鉢	石英、長石、 貝殻の粒子を混入	良好	やや橙色を帯びた褐色　斜・横位の貝殻条痕を地文とする。上からやや太目の沈線文を施文し、文様を構成している	褐色　不定方向の貝殻条痕	晩期	371.2	809.5	47.56
081	3780	深鉢	石英、長石、金雲母、 貝殻の小粒子を混入。 全体に精製され良質	良好	黄灰色～黒灰色　下地に横方向の貝殻条痕　上から横方向の板ナデ調整を加える。	黒褐色　口唇部はナデにより丸く仕上げるが、部分的に板ナデにより平坦になる。横方向の貝殻条痕。ススが付着する	晩期	377.3	808.9	47.54
082	3780	深鉢(半粗製)	粗石英、長石少なく含む	良好	オリーブ黒　ナデ	黒褐　貝殻条痕	晩期	377.5	809.1	47.63
083	3780	鉢(精製)	粗石英、長石含む	良好	黒　ミガキ	黒　ミガキ	晩期	377.8	808.9	47.63
084	3780	深鉢	石英、長石含む	良好	赤橙　貝殻条痕	赤橙　貝殻条痕	晩期	370.7	809.5	47.57
085	3780	深鉢	粗石英、長石含む	良好	鈍い黄橙　貝殻条痕	鈍い黄　貝殻条痕	晩期	379.1	802.9	47.56
086	3780	深鉢	石英、長石、貝殻のやや 粗い粒子を混入	良好	赤褐色 やや明るい 横方向の貝殻条痕	黄赤褐色 縦方向の粗い貝殻条痕 一部にスス付着	晩期	379.5	802.9	47.51
087	3780	深鉢	石英、長石含む	良好	橙　貝殻条痕	橙　貝殻条痕　口唇部刻目文	晩期	371.6	808.5	47.37
088	3780	深鉢	細石英、長石含む	良好	橙　貝殻条痕	赤褐　貝殻条痕	晩期	374.3	809.6	47.27
089	3780	深鉢	粗石英、長石含む	良好	黒褐　貝殻条痕　炭化物	橙　貝殻条痕	晩期	377.8	804.8	47.34
090	3780	深鉢	粗石英、長石含む	良好	黒褐　貝殻条痕	黒褐　貝殻条痕	晩期	378.2	804.7	47.22
091	3780	深鉢	粗石英、長石含む	良好	褐　貝殻条痕	橙　貝殻条痕	晩期	378.9	802.7	47.40
092	3879	鉢(半精製)	石英、長石、輝石含む	良好	鈍い黄褐　ナデ	褐　ナデ	晩期	387.0	791.6	47.43
093	3879	深鉢(半粗製)	石英、長石、輝石含む	良好	鈍い黄橙　貝殻条痕→ナデ	褐灰　貝殻条痕→ナデ	晩期	387.0	795.8	47.53
094	3879	鉢(精製)	良　砂粒ほとんど含まない	良好	灰　ミガキ	黒褐　ミガキ	晩期　黒川式	386.2	796.3	47.59
095	3879	浅鉢(精製)	細石英、長石含む	良好	暗褐　ミガキ	暗褐　ミガキ	晩期　黒川式	385.4	792.1	47.59
096	3879	鉢(精製)	細石英、長石少なく含む、精良	良好	黒～灰黄　ミガキ	暗褐～鈍い黄　ミガキ	晩期　黒川式	385.5	791.5	47.49
097	3879	鉢(精製)	良　石英、長石わずかに含む	良好	黄褐　ミガキ	鈍い黄　ミガキ	晩期　黒川式	385.4	791.4	47.60
098	3879	鉢(精製)	細石英、長石含む	良好	黒褐　ミガキ	暗褐　ミガキ　下方に張り出す突起	晩期　黒川式末	385.2	791.7	47.60
099	3879	鉢(精製)	石英～輝石含む	良好	暗灰黄　ミガキ	鈍い黄　ミガキ	晩期　黒川式末	385.2	791.2	47.65
100	3879	鉢(精製)	石英、長石含む	良好	黒褐　貝殻条痕→ミガキ	黒褐　貝殻条痕→ミガキ　凹線	晩期　古閑式	385.1	792.5	47.59
101	3879	深鉢(半粗製)	石英、長石含む	良好	橙　貝殻条痕→ナデ	橙　貝殻条痕→ナデ	晩期	384.6	792.6	47.47
102	3879	深鉢(粗製)	石英、長石多い、雲母含む	良好	灰黄褐　ナデ	鈍い橙　貝殻条痕	晩期	383.9	791.8	47.58
103	3879	深鉢	石英、長石、角閃石、雲母、輝石含む	良好	黄褐　貝殻条痕	鈍い黄褐　ナデ	晩期	384.6	796.6	47.44
104	3879	深鉢(粗製)	細石英、長石、輝石含む	良好	褐灰　貝殻条痕	明黄褐　貝殻条痕	晩期	381.7	797.2	47.51
105	3879	鉢(半精製)	石英、長石含む	良好	黒　ミガキ	黒灰　貝殻条痕→ナデ	晩期　黒川式	382.5	797.3	47.63
106	3879	浅鉢(精製)	精良　砂粒ほとんど含まない	良好	黒　ミガキ	黒褐　ミガキ	晩期　黒川式	386.5	797.6	47.58
107	3879	鉢	精良　石英、輝石少なく含む	良好	鈍い黄橙　ミガキ	黒～鈍い黄橙　ミガキ	晩期	385.7	791.6	47.38
108	3879	浅鉢(精製)	細石英、輝石含む	良好	黒　ミガキ	鈍い黄褐　ミガキ	晩期	385.7	791.6	47.38
109	3879	浅鉢(精製)	良　砂粒ほとんど含まない	良好	灰黄褐　ミガキ	鈍い黄褐　ミガキ	晩期　黒川式	387.3	791.6	47.37
110	3879	深鉢	石英、長石多い	良好	鈍い橙　貝殻条痕	黒褐　貝殻条痕→平行沈線文	晩期	385.9	799.3	47.19
111	3879	浅鉢(精製)	精良　石英わずかに含む	良好	鈍い黄橙　ミガキ	橙　ミガキ	晩期	387.3	791.3	47.07
112	3880	鉢	石英、長石含む	良好	鈍い黄　ヘラナデ	暗灰黄　ナデ	晩期	388.1	805.8	47.30
113	3880	深鉢	石英、長石多い	良好	鈍い黄橙　貝殻条痕	黄褐　貝殻条痕	晩期	384.8	802.3	47.55
114	3880	鉢(精製)	良　細石英、長石含む	良好	褐灰　ミガキ	黒褐～黒　ミガキ	晩期　黒川式末	386.1	806.9	47.44
115	3880	深鉢	石英、長石多い	良好	黒　ナデ	黒灰　ナデ	早期	382.5	808.3	47.38
116	3880	深鉢	石英、長石含む	良好	黄褐　貝殻条痕	暗灰黄　貝殻条痕　口唇部刻目文	晩期	381.6	809.5	47.54

遺物番号	グリッド	器種	胎土	焼成	内面(色調・調整)	外面(色調・調整)	備考	X=56,000に+値	Y=-61,000に-値	レベル(m)
117	3880	深鉢	石英、長石含む	良好	橙　ナデ	鈍い黄　貝殻条痕　アバタ状小孔あり	晩期	380.9	808.6	47.35
118	3880	鉢(精製)	良　石英、長石少なく含む	良好	黄灰　ミガキ	黒褐　ミガキ	晩期	380.9	807.4	47.64
119	3880	鉢(精製)	良　砂粒ほとんど含まない	良好	暗灰黄　ミガキ	鈍い黄褐　ミガキ	晩期	380.6	808.5	47.45
120	3880	深鉢	石英、長石、輝石含む	良好	暗褐　貝殻条痕	暗褐　貝殻条痕	晩期	382.9	802.4	47.41
121	3978	深鉢	石英、長石含む	良好	鈍い黄褐	鈍い橙　ナデ	早期　押型文　SD-01下地山断割時出土	—	—	—
122	3978	深鉢	石英、長石、雲母、輝石含む	良好	鈍い黄褐　ナデ	鈍い黄橙　小楕円押型文　φ3～4mm	早期　押型文　SD-01下地山断割時出土	—	—	—
123	3978	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	鈍い黄橙　ナデ	鈍い黄橙　ナデ　小楕円押型文　φ=4mm	早期　押型文　SD-01下地山断割時出土	—	—	—
124	3978	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	鈍い黄橙　ナデ	鈍い黄橙　ナデ　小楕円押型文 φ=4mm	早期　押型文　SD-01下地山断割時出土	—	—	—
125	表採	深鉢	粗　石英、長石多い	良好	明褐	暗褐　撚糸文	早期　撚糸文 押型文と同時期か	—	—	—
126	表採	深鉢	石英、長石含む	良好	黒褐　ナデ	褐灰　貝殻条痕　口唇部刻目文	晩期　黒川式末	—	—	—
127	表採	深鉢	石英、長石含む	良好	鈍い橙　貝殻条痕	鈍い黄橙　貝殻条痕	晩期　粗製	—	—	—
128	表採	深鉢	石英、長石、角閃石細かく含む	良好	灰黄褐　貝殻条痕	黒　粗いミガキ　口唇部指頭文	晩期	—	—	—
129	表採	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	黒　ナデ	灰黄～鈍い黄橙　貝殻条痕→ナデ　口唇部棒状工具刻目文	晩期	—	—	—
130	表採	深鉢	石英、長石含む	良好	黒褐　ナデ	明褐　貝殻条痕　アバタ状小孔	晩期	—	—	—
131	表採	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	暗褐　ナデ	黄褐　ナデ　口縁刺突文	早期　柏原式	—	—	—
132	表採	鉢(半精製)	石英、長石、雲母含む	良好	灰黄　ミガキ	黒　ミガキ　凹線	晩期　黒川式末	—	—	—
133	表採	深鉢	石英、長石、角閃石、雲母含む	良好	鈍い黄橙　貝殻条痕	鈍い黄褐　貝殻条痕	晩期　粗製	—	—	—
134	表採	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	黒褐　貝殻条痕	鈍い黄褐　貝殻条痕　口唇部刻目文	晩期　黒川式末	—	—	—
135	表採	深鉢	石英、長石含む	良好	鈍い黄橙　貝殻条痕	鈍い黄褐　貝殻条痕　口唇部刻目文	晩期　黒川式末	—	—	—
136	表採	鉢(半精製)	石英、長石含む	良好	褐灰　ミガキ　沈線文	暗褐　貝殻条痕	晩期　黒川式末	—	—	—
137	表採	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	暗褐　貝殻条痕	褐灰　貝殻条痕	晩期　粗製	—	—	—
138	表採	深鉢	石英、長石、輝石、雲母目立つ	良好	明赤褐　ナデ	鈍い橙　貝殻条痕　口唇部細刻目文	[illegible]	—	—	—
139	表採	深鉢	石英、長石、輝石多い	良好	暗褐　ナデ	鈍い黄橙　楕円押型文φ=4×6mm	早期　押型文	—	—	—

2区出土石器観察表

遺物番号	グリッド番号	種類	石材	重量(g)	X=56,000に+値	Y=-61,000に-値	レベル(m)	備考
140	3579	石鏃	黒曜石	0.7	358.5	794.8	47.68	
141	3580	石斧	玄武岩	215.9	352.2	808.9	47.59	
142	3580	石鏃	黒曜石	2.1	356.3	806.9	47.74	剥離面残
143	3779	石鏃	黒曜石	1.1	374.3	791.0	47.77	剥離面残
144	3779	石匙	安山岩	20.6	373.3	792.5	47.74	
145	3780	石鏃	黒曜石	0.9	377.1	801.3	47.69	
146	3780	石鏃	安山岩	1.4	377.8	802.9	47.67	
147	3780	石匙	安山岩	14.4	374.7	805.1	47.62	
148	3780	石鏃	安山岩	0.8	378.8	804.2	47.47	
149	3780	石鏃	黒曜石	0.9	375.5	805.8	47.54	
150	3780	石鏃	黒曜石	3.9	373.3	804.2	47.50	剥離面残
151	3780	石鏃	安山岩	10.5	375.4	807.1	47.63	剥離面残
152	3780	石鏃	黒曜石	0.7	374.1	808.8	47.37	剥離面残
153	3879	尖頭器	安山岩	2.6	386.3	799.1	47.29	
154	3879	石鏃	黒曜石	1.3	386.3	798.0	47.57	
155	3879	石鏃	安山岩	2.8	384.3	797.7	47.41	
156	3879	石鏃	安山岩	2.5	383.2	798.0	47.53	
157	3879	石鏃	黒曜石	0.9	384.6	799.2	47.30	剥離面残
158	3879	石鏃	黒曜石	3.2	382.1	798.6	47.43	剥離面残
159	3880	石鏃	黒曜石	0.6	385.5	803.7	47.50	
160	3880	石鏃	黒曜石	0.9	386.0	806.6	47.23	
161	3880	石鏃	黒曜石	0.6	383.5	804.1	47.59	
162	3880	石鏃	黒曜石	1.8	383.2	803.3	47.50	
163	3880	石鏃	黒曜石	1.2	383.2	803.2	47.50	
164	3880	石鏃	黒曜石	1.1	381.9	805.5	47.62	剥離面残
165	3880	石鏃	黒曜石	0.8	382.8	806.8	47.57	
166	3880	石鏃	安山岩	1.5	381.3	804.0	47.59	
167	3880	石鏃	安山岩	0.8	382.3	803.5	47.50	
168	3880	石鏃	安山岩	1.0	385.5	805.3	47.32	

遺物番号	グリッド番号	種類	石材	重量(g)	X=56,000に+値	Y=-61,000に-値	レベル(m)	備考
169	3880	石器	黒曜石	1.8	386.7	801.7	47.33	
170	表採	石器	黒曜石	0.9	—	—	—	
171	表採	石器	黒曜石	0.7	—	—	—	
172	表採	石器	黒曜石	0.8	—	—	—	
173	表採	石器	黒曜石	0.7	—	—	—	
174	表採	石器	黒曜石	0.9	—	—	—	
175	表採	石器	黒曜石	0.5	—	—	—	
176	表採	石器	黒曜石	2.1	—	—	—	剥離面残
177	表採	敲石	砂岩	827.2	—	—	—	
178	表採	石匙	安山岩	27.5	—	—	—	
179	表採	石匙	安山岩	24.8	—	—	—	

4．3区の調査

調査概要

この調査区は、調査２区の南に位置しており、今回の事業地の南端にあたる。農道敷設と水路の掘削工事をおこなう計画のため、調査区として設定した。現況は水田で、調査地中央部に南北方向の水路があるため、調査区を東西二つに分け作業をおこなった。東側の調査区（91㎡）では、地山である黄褐色シルト層が褐色から灰白色まで変色しており、西側に向け浅い谷状に落ち込んでいる。谷内は暗灰黄色砂質土、黒灰色砂質土、灰黄色細砂などで埋まっている。西側調査区（102㎡）では、東側に向け浅い谷状に落ち込んでおり、谷自体の幅は約 30 mである。現況水路の方向は、かつての谷の方向と一致している。遺構検出面は、２区でみられた黄褐色シルト層でおこない、ピット状の遺構を複数検出した。ピット状遺構において、掘削時に遺物の出土したものには 301 から番号を付し、遺物を取り上げた。合計 4 基の遺構から遺物が出土した。

調査終了後、西側調査区西側で深掘トレンチによる、遺構検出面である黄褐色シルト層の下位状況の確認作業をおこなった。基本層序は次のとおりであった。遺構検出面上から約 50cm の黄褐色～灰褐色シルト層の下は、約 50cm の灰褐色シルトと拳大礫混じり層、その下 100cm までは約 50 ～ 80cm の大型花崗岩礫層であった。このトレンチ調査において、遺構、遺物は確認されなかった。

遺構と遺物

東側調査区と西側調査区の東寄りで検出された遺構は、平面不定形の窪み状を呈するもので、柱痕跡を含め遺物等も出土していない。谷部下位の覆土が砂質土から細砂の水成堆積であることから、常に水が流れる谷状を呈していたと考えられる。西側調査区の標高 48.2 mより高所の部分には、遺物が出土するピット状遺構がみられた。301 は、X ＝ 56,285.0 Y ＝－ 61,823.2 に位置しており、平面は直径約 30cm の楕円形を呈している。時期不明であるが、赤焼土器の口縁部小破片 1 点が出土している。302 は出土遺物取り上げ後の洗浄作業により人為的遺物でないことが判明したため欠番とする。303 は X ＝ 56,283.9 Y ＝－ 61,819.8 に位置しており、平面は長軸 60cm、短軸 30cm の長楕円形を呈している。残存する深さは 9 cm であり、2.5 g の透明度のある黒曜石剥片が 1 点出土した。304 は X ＝ 56,286.9 Y ＝－ 61,821.0 に位置しており、最大幅 60cm の溝状を呈している。残存する深さは 8 cm であり、2.2、0.2 g の透明度のある黒曜石剥片が 2 点出土した。305 は X ＝ 56,287.1 Y ＝－ 61,819.8 に位置しており、平面は長軸 100cm、短軸 40cm の長楕円形を呈している。残存する深さは 13cm であり、詳細な時期は不明であるが縄文土器の小破片が 1 点出土している。その他、遺構面精査時に外器面を条痕で調整する土器片など、縄文時代遺物が表採された。

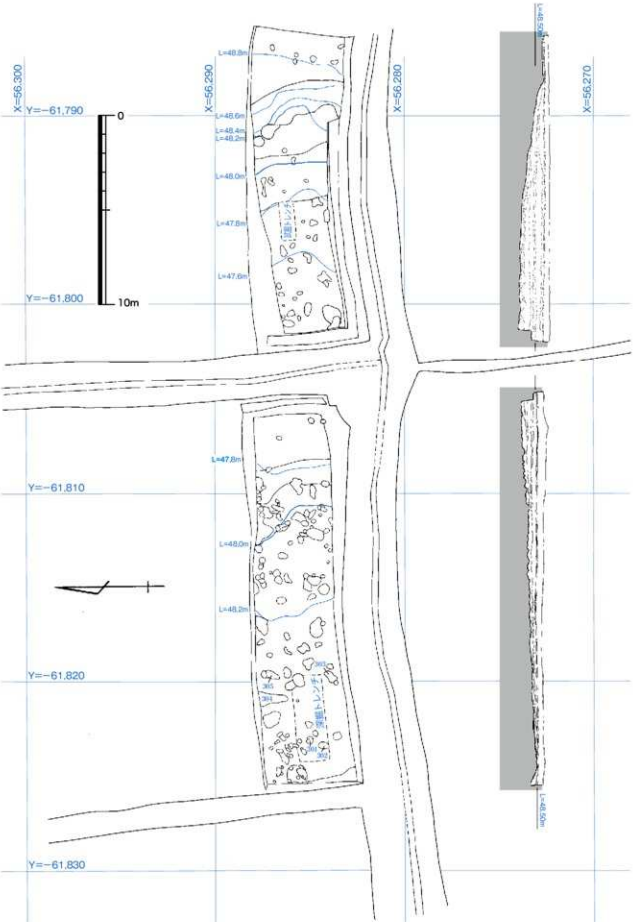


Fig.23　3区遺構配置図（1/200）

5．4区の調査

調査概要

この調査区は、調査１区の北側に位置しており、内野熊山遺跡の北端にあたる。現況は水田で、北側の田面レベルは１ｍ以上下がっており、地形的にも調査区北側は谷に向かって急激に落ちていくものと考えられる。農道敷設と田面の切り下げ掘削工事をおこなう計画のため、調査区として設定した。三角形を呈する田面が２面にわたっていることから、調査区を東西二つに分け作業をおこなった。東側調査区（315㎡）では、地山である黄褐色シルト～砂質土層上に小型土坑状の遺構がみられ、調査区西寄りには粗砂を覆土とし、蛇行しながら北流する溝状の遺構が確認された。西側調査区（191㎡）では、黄褐色砂質土層にて遺構検出作業をおこなったが、明瞭な遺構は確認されなかった。しかし、各区でみられる安定した面をもつ黄褐色シルト層が比較的良好に遺存しており、縄文時代遺構の存在が考えられているため、集石遺構、焼土面の確認を目的にグリッドを設定し調査した。調査区内に世界測地系座標を基準とする10ｍ×10ｍのグリッドG5076を設定し、遺構検出面である黄褐色シルト～砂質層はスコップによる掘削調査をおこなった。

調査終了後、G5076の東側隣接地で深掘トレンチによる、遺構検出面である黄褐色シルト層の下位状況の確認作業をおこなった。基本層序は次のとおりであった。遺構検出面上から約50cmの黄褐色砂質土層、約30cmの黄灰褐色砂層、約50cmの灰黄色砂層、約40cmの拳大礫層、約20cmのマンガンが顕著に沈着した礫層、約50cmの黄褐色粗砂層、約30cmの灰褐色粘土層、黄褐色砂礫層であった。遺構検出面から約270cm掘下げたが、このトレンチ調査において、遺構、遺物は確認されなかった。

遺構と遺物

東側の調査区では、比較的安定している黄褐色シルト層が耕作土、盛土、粗砂層を剥いだ直下である標高約45.6ｍで確認され、遺構検出作業をおこなった。その結果、調査区東側では長軸約1.4ｍ、短軸約１ｍの土坑状の遺構が複数検出された。遺存する深さは10～20cmであり、茶褐色粘質土と粗砂混じり土を覆土としている。出土遺物は、小破片遺物を含めて出土しなかった。調査区西側では、蛇行しながら北流する溝状の遺構がみられた。覆土は黄灰色粗砂であり、その上層の黄褐色粗砂を含め粗砂層は調査区東側にかけ広く全体を覆っている。遺物が出土していないためその時期は不明であるが、この粗砂を押し流し堆積させるほどの大規模な洪水がおこったことを示している。

西側調査区は、上述したように安定している黄褐色シルト層はみられるものの、遺構の遺存は確認されなかった。グリッド調査ではG5076を設定し掘削作業をおこない**No.1**～**No.3**の３点の遺物が出土した。**No.1**は器壁厚約８㎜の土器片である。焼成はやや不良で、胎土には１～２㎜の石英を少量含んでおり、色調は黄茶褐色を呈している。器面は荒れており、調整は不明である。**No.2**は土器片と思われ記録後取り上げたが、後日洗浄した際自然石と判断されたため欠番とする。**No.3**は器壁厚約５㎜の浅鉢の口縁部小破片である。焼成は良好で、胎土には１㎜程度の石英を少量含んでおり、色調は暗茶褐色を呈している。口縁内側には段を有しており外器面には条痕がみられるが、内器面の調整は不明である。

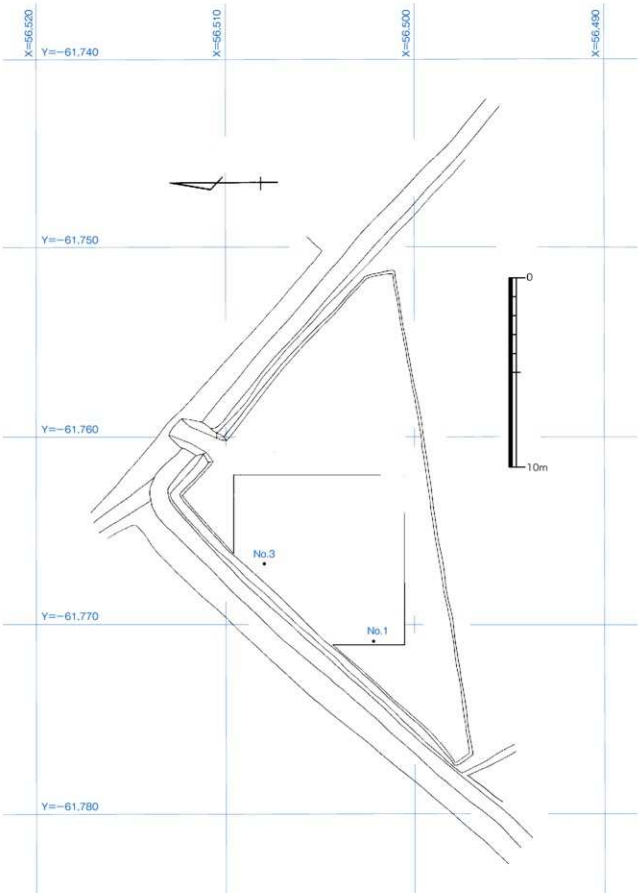


Fig.24　4区西側調査区遺構配置図（1/200）

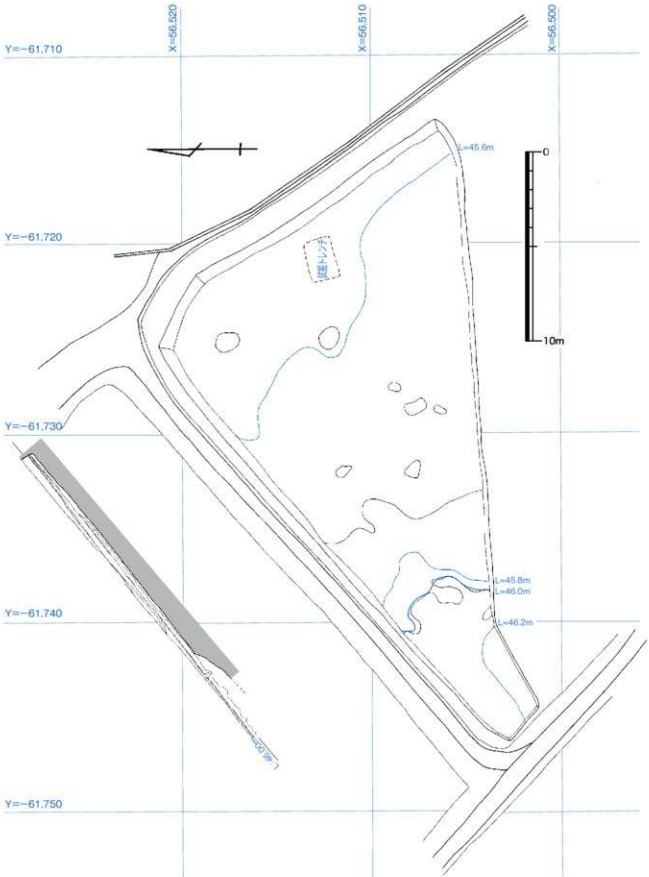


Fig.25　4区東側調査区遺構配置図（1/200）

6．まとめ

今回の調査においては、良好な遺構の遺存は確認されなかったが、多くの縄文時代期の石器、土器が出土した。その所属時期は大きく早期、後期、晩期の３時期がみられ、早良平野最奥部においては特に早期遺物の出土状況に関心が集まっていた。埋没谷を挟んだ北側の松木田遺跡では、福岡市内の沖積平野としては早期の遺物がまとまって出土しており、松木田遺跡の南側に位置する内野熊山遺跡内においても当該期遺構の存在が想定されていた。しかし、遺物は出土したが遺構自体は確認されなかった。出土遺物は縄文時代遺物が主体をなしており、今回の調査地は縄文時代の早期、後期、晩期と断続的に営まれた居住域の縁辺部にあたるものと考えられる。遺跡周辺の地勢は南側から北に向けて緩やかに傾斜していることから、縄文時代早期の居住域は北側の松木田遺跡だけにとどまらず、分布域は調査地の南側近接地にも広がることを明らかとした今調査の成果には大きな意義がある。今後、内野熊山遺跡内での縄文時代早期の遺構の検出を期待したい。

ph.　調査前状況

PLATE
（図版）

1）1区全景（東から）

2）調査前風景（北西から）

3）調査前風景（西から）

4）表土剥風景（西から）

5）遺構検出作業風景（北西から）

PL.2

1）下層確認トレンチ１掘削状況（東から）

2）下層確認トレンチ２掘削状況（北から）

3）０１７石斧出土状況（南から）

4）発掘調査作業風景（西から）

5）遺構掘削状況（東から）

6）遺構掘削状況（南から）

7）Ｇ４１７７掘削状況（北から）

8）グリッド調査掘削状況（西から）

1）２区掘削状況（南から）

2）遺構検出面精査状況（北西から）

3）SD－０１掘削状況（北から）

4）Ｇ３５７９掘削状況（東から）

5）Ｇ３５８０掘削状況（西から）

PL.4

1）Ｇ３６７８掘削状況（西から）

2）Ｇ３６７９掘削状況（東から）

3）Ｇ３６８０掘削状況（西から）

4）Ｇ３７７９掘削状況（東から）

5）Ｇ３７８０掘削状況（西から）

6）Ｇ３８７９掘削状況（東から）

7）Ｇ３８８０掘削状況（西から）

8）調査区埋め戻し状況（南から）

1）3区東側調査区遺構検出状況（西から）

2）3区西側調査区遺構検出状況（東から）

3）東側調査区作業風景（東から）

4）西側調査区遺構検出状況（西から）

5）東側調査区南壁土層堆積状況（北から）

6）下層確認掘削状況（南西から）

PL.6

1）４区東側調査区掘削状況（西から）

2）東側調査区調査状況（南から）

3）東側調査区調査風景（西から）

4）東側調査区溝状遺構断割状況（南東から）

5）４区西側調査区掘削状況（南東から）

6）西側調査区掘削状況（南西から）

7）Ｇ５０７６掘削状況（東から）

8）下層確認掘削状況（南から）

017

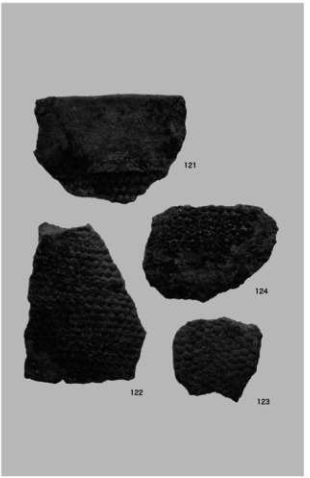
020

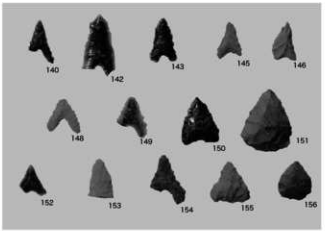
141

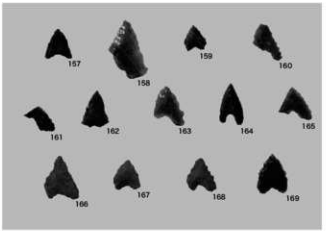
144
147

PL.8

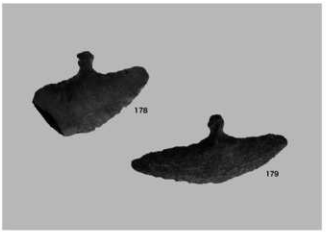
045
046


121
124
122
123


140
142
143
145
146
148
149
150
151
152
153
154
155
156


157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169

177


178
179

報告書抄録

ふりがな	うちのくまやま1
書名	内野熊山1
副書名	−内野熊山遺跡第1次調査の報告−
巻次	長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書2
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第1205集
編著者名	加藤隆也
編集機関	福岡市
発行機関	福岡市教育委員会
発行年月日	2013年3月22日
作成法人ID	40135
郵便番号	810-8621
所在地	福岡市中央区天神1-8-1

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
うちのくまやまいせき 内野熊山遺跡	福岡市早良区早良2丁目地内	40130	0791	33°30′24″	130°20′07″	20100916～ 20110125	3,149㎡	記録保存調査

種別	主な時代	遺跡概要	特記事項
集落遺跡	縄文時代早期～縄文時代晩期	縄文時代遺物が粗密をもって散布	市内の沖積平野では稀少な縄文時代早期をはじめとする各期の縄文時代土器、石器が出土

海側より調査区を望む

長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 2

内野熊山 1

－ 内野熊山遺跡第1次調査の報告 －

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第1205集
2013（平成25）年 3 月22日
発行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神 1 丁目 8 番 1 号
印刷　高松印刷有限会社
福岡市東区松島1丁目4－10